



Institute of Education,
Research and Regional Cooperation
for Crisis Management Shikoku

香川大学
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

報告 2021

序文

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 機構長

吉田 秀典

2021 年 7 月 3 日、日本列島に停滞する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となっていました。静岡県熱海市網代の観測地点では、午後 3 時 20 分までの 48 時間で、7 月としては観測史上最多となる 321mm の降水量を記録していましたが、この雨で、適切に実施されなかったと報道されている盛土部分で大規模な崩壊が起こり、土石流となって多くの人命を奪いました。2022 年は、気象庁の速報値では梅雨が 6 月中に明けたとの発表がありましたが、その後、9 月 1 日の確定値の発表によれば九州から関東甲信越地方の梅雨明けは 7 月下旬に修正され、東シナ海から東日本に伸びる前線と日本海中部の低気圧の影響で、7 月 15 日深夜から 16 日昼頃にかけて宮城県で大雨になり、宮城県には記録的短時間大雨情報が相次いで出され、河川の堤防決壊・氾濫や住宅の浸水などが発生しました。このように、近年では、線状降水帯の発生や長期にわたる降雨など、以前と比べ明らかに気象が変化していることに加え、激甚化する自然災害に対して、これまでに整備してきたインフラでは耐えられない事例が散見されています。

また、中国・武漢市において、2019 年 12 月以降、発生が報告され、中国を中心に世界各国からも発生が報告されている新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界に拡散し、より感染力の強い株へ変異し、わが国でも第 7 波に突入しております。依然として収束する気配がなく、日本経済に暗い影を落としております。さらに、国連において世界平和の中心的役割を果たすべき安全保障理事会の常任理事国が隣国に軍事侵攻し、罪もない市民に多くの犠牲を出すだけでなく、世界的なエネルギー供給不安や食糧不足等の危機がもたらされています。医療を含めた様々な学問が高度化し、政治も成熟してきた 21 世紀において、誰がパンデミックや戦争とそれにとまなう経済不安・食料不足等が起これと予想したでしょうか。

このように、自然災害、パンデミック、経済不安、食料不足といった様々な危機は、実は、我々の日常と背中合わせであり、決して、「他人事」ではないと考えます。したがって、こうした危機に際しても、「しなやかに対応」できるようなレジリエンスを、我々は身に付ける必要があるのではないのでしょうか。こうしたレジリエンス（強靱化）を醸成し、普及するためには、的確かつ最善な危機管理を実践できる人材育成や、様々な危機に対して先駆的な研究開発が求められると考えます。

香川大学の四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、危機管理に係る様々なニーズに対応するために危機管理先端教育研究センターと地域強靱化研究センターという 2 つのセンターを擁し、両センターにて、先端教育プログラム開発やそれを活用した高度な人材育成のほか、最先端のレジリエンスサイエンス（減災科学）研究を実践しています。また、教員の持つ豊富かつ多岐にわたる資質を最大限に活かすために 8 つの教育研究部門（先端教育プログラム開発部門、人材教育部門、減災基礎研究部門、地域連携部門、減災応用研究部門、大学間連携部門、国際連携部門、災害医療・健康危機管理部門）を設置し、さらに、独自に研究助成ファンドを設けるなどして、文理融合研究を励行しております。

このように四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、人材輩出と研究開発成果の普及だけでなく、四国の災害対応拠点である香川県における防災・減災教育研究拠点としての機能強化を図っていく所存ですので、今後とも、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構の活動に対して、ご支援ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和2年4月より四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長ならびに危機管理先端教育研究センター長を拝命いたしました長谷川 修一です。本研究センターは大規模化・広域化する自然災害、多様化・複雑化する人為災害に対して、災害の規模・種類を問わず一つの組織行動原則（オールハザードアプローチ）のもとに対応するため、関連する基礎研究の推進と拠点形成、並びに適切な判断・意思決定のもとに迅速に対処できるレジリエンスサイエンスリーダーの育成を目指しています。具体的には、以下の研究課題に取り組みます。

1) 四国国立5大学連携による危機管理教育研究の推進と拠点形成

四国国立5大学が連携して平成26年4月に「四国5大学連携防災・減災教育研究協議会」を設置し、四国地域における巨大災害に対する防災・減災の研究、人材育成、防災意識の啓発及び復興デザイン等の研究に組織的に取り組んでいます。また四国4県の防災担当部署と5大学が連携した「四国官学連携防災・減災協議会」を平成30年10月に設置し、行政機関の実効性と大学の研究教育力を融合した連携事業の展開により四国地域の強靱化を推進しています。

2) 四国防災・危機管理プログラムの推進

徳島大学との連携、香川県、徳島県の協力のもとに、平成24年「四国防災共同教育センター」を香川大学内に設置し、平成25年から受講生を受入れて「四国防災・危機管理特別プログラム」を開講しました。本プログラムは文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業に採択され平成28年度まで5年間実施しました。平成29年度からは名称を「四国防災・危機管理プログラム」に変更し、引続き香川大学と徳島大学が連携して実施しています。令和4年3月末時点で213名のプログラム修了生に「災害・危機対応マネージャー」の資格を授与しています。今後は、国内、国外への普及を目指しています。

3) レジリエンスエンジニアリングに基づく教育訓練システムの開発と実践

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、想定を超える大規模広域災害に対しても、適切な意思決定と迅速な判断・行動ができる実践力を備えた人材育成を目的に、平成25年4月に「災害状況再現・対応能力訓練システム」を開発しました。このシステムでは、VRにより想定外の災害状況を具現化し、訓練体験者がその危機的状況の中で状況判断し、意思決定を行い、行動するという一連の危機管理対応訓練が可能です。学校防災コース、行政・企業防災コース、応急手当コースを基本に訓練を実施しており、これまで中四国を中心に約3,515名の方が訓練を体験されています。基礎的訓練から応用訓練まで体験者個人やグループの要望に応じて訓練が可能なシステムになっています。現在は主として地震災害が対象ですが、今後は風水害や土砂災害等も対象とした訓練システムの開発を目指しています。

4) オールハザードアプローチに基づく危機管理教育プログラムの開発と拠点形成

多様化・大規模化・広域化する自然災害に対しては、対処する広範な関係組織や部署を統合し調整することが必要になります。そのためには、通常の職務や管轄、行政区等の境界を超えてすべての当局、利害関係者を一時的に単一の枠組みの中に統合する「多当局協働システム」が有効です。このシステムを効果的に機能させるためには、危機管理者にはコミュニケーションなどの社会的技能や、状況認識などの認知技能、リーダーシップや問題解決能力の管理者技能の習得が必要です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、公共分野における組織間学習やリーダーシップ教育などの非技術技能教育を習得できるプログラムの開発とそれを活用した実践教育として、「四国防災・危機管理プログラム」を位置づけて推進しています。現在、新型コロナウイルス感染症が拡大しています。今後はコロナ禍における複合災害も視野に入れて、危機管理教育プログラムの開発と拠点形成を推進する所存です。

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長ならびに地域強靱化研究センター長の金田義行です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、発生が危惧される南海トラフ巨大地震や熊本地震のような内陸地震に備えるための減災科学研究を推進し、研究拠点となることを目指しています。また、南海トラフ巨大地震のような国難級の災害と近年頻発する広域・甚大な風水害などとの複合災害への対応、さらには国際連携を推進しアジアの防災減災拠点を目指します。そのためには人材育成が必要不可欠です。具体的には、以下の研究課題に取り組めます。

1) レジリエンスサイエンス等減災応用研究推進と研究成果を活用した地域支援

レジリエントな社会形成には、想定外の事態に対して地域社会の継続を目標に、危機を分析・評価し、適切にマネジメント（計画・実践）できる高度な対応能力（ハイコンピテンシー、レジリエンス能力）を有する人材が必要です。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、地域コミュニティや、企業、行政等の地域強靱化に資する活動支援を通じて、最新のレジリエンスサイエンス研究成果の地域への社会実装を目指し、レジリエンスサイエンスリーダーの育成や減災応用研究を推進いたします。また、災害情報の利活用に関する研究も行います。

2) 香川地域継続検討協議会の運営・推進

巨大地震による被害は、東日本大震災を踏まえると、個々の組織に留まらず広域的な災害が発生し、地域が機能不全に陥る恐れがあるため、大規模かつ広域的な災害発生を想定した地域継続計画（District Continuity Plan : DCP）の策定・運用が必要です。香川県は、南海トラフ地震が発生した場合の四国の防災拠点としての役割が期待されていることから、早急に DCP を策定することが必要です。そこで、香川地域継続検討協議会は、DCP の策定はもちろん、その実効性を担保するために、各機関が既に策定している事業継続計画（Business Continuity Plan : BCP）についても DCP の視点からの見直し・改善を図るとともに、BCP の策定が遅れている機関・組織の BCP 策定支援を行い、四国地震防災基本戦略の推進を図ることを活動目的としています。また、南海トラフ地震対応さらに発災後の地域強靱化計画の立案支援にも積極的に取り組みます。今後は事前復興計画の検討も行います。

3) 香川地域継続首長会議の運営・推進

南海トラフ巨大地震のような広域、甚大な災害では四国地域全体におよび、市町単独での対応が困難であることは東日本大震災の被災状況から明らかです。従って、香川県下の 17 市町の行政、企業、学校、病院等個々の組織が BCP を策定するとともに、各市町の連携、県単位での DCP の策定及び実践が必要となります。その具現化に向け、香川地域継続首長会議を設置し、香川県内の首長および関係者が相互連携することで香川地域の地域継続力の向上を図り、四国の緊急災害対策本部機能を発揮することを目指しています。また、南海トラフ巨大地震に関連した「臨時情報」対応も重要課題として取り組みます。さらに県民の防災意識向上の取り組みを継続して推進します。

4) 国際リスクマネジメントセミナーの開設・運営と国際連携拠点形成

自然災害に国境はありません。環太平洋域ではチリやペルー、ニュージーランドに代表される地震国、アジア圏では、インドネシア、台湾、ネパール、トルコといった地震国などで甚大な被害が発生しています。その被害軽減のためには国内の減災対策やリスクマネジメントシステムをベースにした、国際的な視点でのリスクマネジメントの普及が不可欠です。具体的には、海外の若手研究者や行政等に関わる方々を対象にリスクマネジメントに関わる知識習得や対策法を目的とした国際リスクマネジメント講座を開設します。この講座をコアとした国際連携拠点を形成し、人材交流・人材育成とリスクマネジメントの国際的な社会実装を目指します。尚、講座の開設・運用に関しては、四国の各大学と連携した四国減災研究連携を推進します。

◆四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構報告 目次◆

序文

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長

危機管理先端教育研究センター長、地域強靱化研究センター長

I.四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構紹介 …… 1

II.2021 年度 活動状況

1.研究スタッフ …… 3

2.危機管理先端教育研究事業の実施 …… 4

- (1) 地域防災リーダー養成
- (2) 機能別消防団の運営
- (3) メンタルヘルスアップリーダー養成
- (4) 「四国防災・危機管理プログラム」実施による防災・危機管理専門家養成
- (5) 学校防災アドバイザー派遣事業
- (6) 想定外災害再現・教育訓練実施

3.地域強靱化研究・地域貢献事業の実施 ……14

- (1) 香川地域継続検討協議会の運営
- (2) 香川地域継続首長会議の運営
- (3) 地域影響分析（DIA）支援システムの開発・運用
- (4) 地震・津波観測監視システム（DONET）情報の利活用
- (5) まちなかカフェ開催による地域防災力向上
- (6) 令和 3 年度小豆島町危機管理等研修プログラム

4.四国国立 5 大学連携による危機管理教育研究推進と拠点形成 ……20

- (1) 四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会の開催
- (2) 四国官学連携防災・減災協議会の開催

5.危機管理分野の国際学術連携推進と拠点形成 ……21

- (1) 国内拠点機能の強化
- (2) 国際拠点機能の強化

6.シンポジウム、セミナー等の開催 ……23

- (1) 海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム
- (2) 香川大学 ジオパーク × グローカル人材育成シンポジウム
- (3) 香川地域継続検討協議会設立 9 周年記念シンポジウム
- (4) 2021 年度香川大学危機管理シンポジウム
- (5) 昭和南海地震から 75 年シンポジウム
- (6) 第 7 回高校生高知減災エンス塾
- (7) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー
～スーパーコンピュータを利用した地震シミュレーション～
- (8) 香川大学 ジオパーク × 地方再生シンポジウム
- (9) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー
～AI を活用した自然災害モニタリング～
- (10) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー
～防災と福祉との連携～

- (11) 平原和朗地震学講座（前期）（前 6 回）
- (12) 平原和朗地震学講座（後期）（前 6 回）
- (13) 地域防災に資する人材育成関連事業への参加者数

Ⅲ. 卷末資料（2021 年度）

1. 研究員実績（社会貢献活動、講演・講義、研究・解説・論文、受賞学術賞）	…… 38
2. 運営、管理	…… 48
3. 規定	…… 49

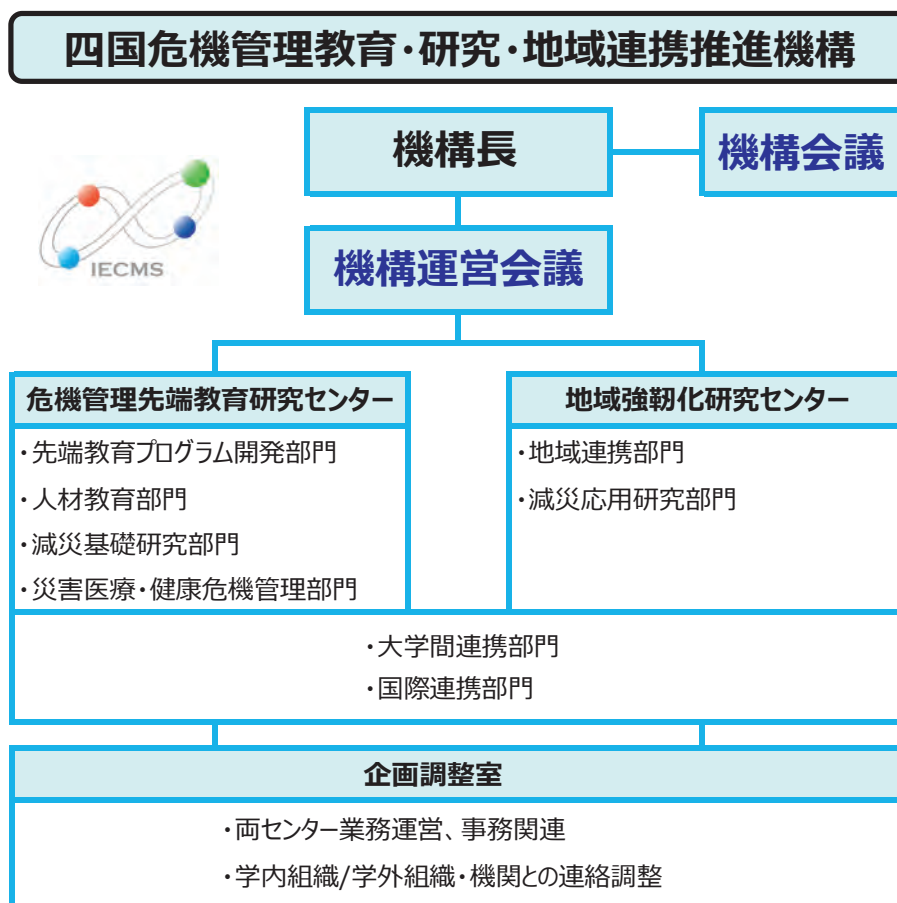
■ I.四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構紹介

香川大学では平成 20 年 4 月に「危機管理研究センター」、平成 24 年に「四国防災共同教育センター」（徳島大学との共同設置）、平成 25 年に「防災教育センター」を設置し、香川県、四国の防災・危機管理教育研究拠点の役割を担ってまいりました。しかし、南海トラフ地震等巨大化・広域化する自然災害や多様化・グローバル化する危機に対して、さらなる拠点機能強化を図るため、「危機管理研究センター」を再編整備する形で、平成 28 年 4 月に「危機管理先端教育研究センター」と「地域強靱化研究センター」の 2 つのセンターで構成される「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」を創設しました。

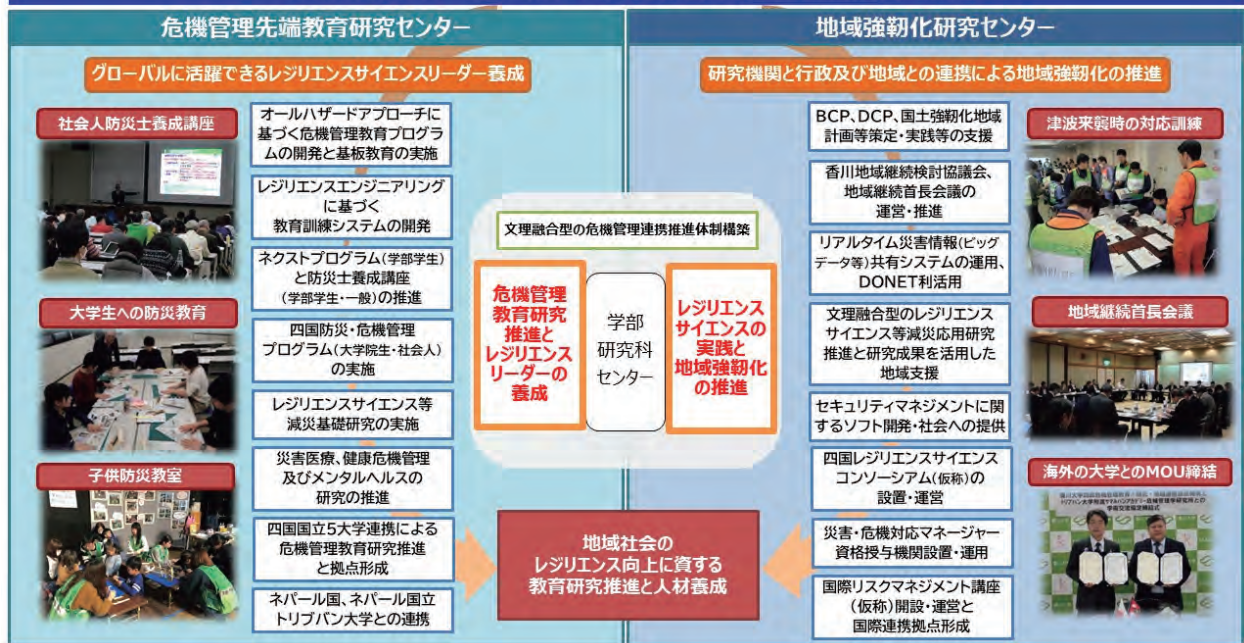
「危機管理先端教育研究センター」では、地質工学、地盤災害、地域防災の研究や教育に長年携わっている長谷川修一特任教授をセンター長として、「先端教育プログラム開発部門」「人材教育部門」「減災基礎研究部門」「災害医療・健康危機管理部門」「大学間連携部門」「国際連携部門」の 6 つの部門を設け、グローバルに活躍できるレジリエンスサイエンスリーダーの養成などを行います。

「地域強靱化研究センター」では、レジリエンスサイエンスの研究で国内外の多くの研究プロジェクトを主導してこられた金田義行特任教授をセンター長として、「地域連携部門」「減災応用研究部門」「大学間連携部門」「国際連携部門」の 4 つの部門を設け、地震・津波観測監視システム(DONET)の利活用のための研究や、災害に対し強くしなやかな地域社会の構築（地域強靱化）を行います。

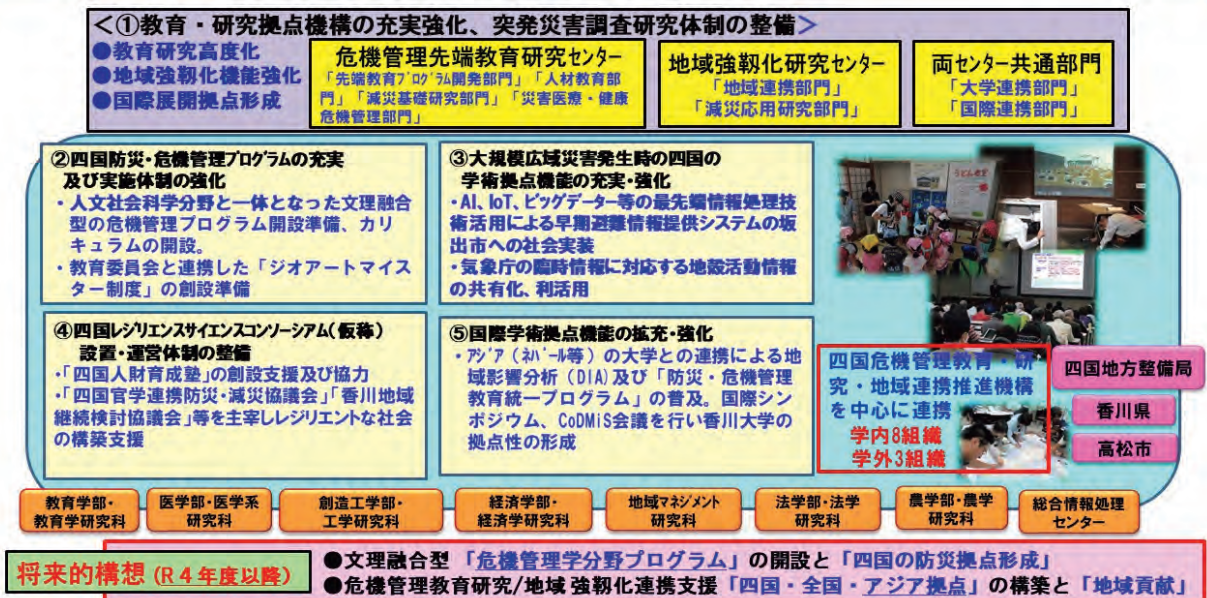
本機構では、地震、津波、高潮、河川氾濫等の自然災害、およびテロ、事故や犯罪等の人為災害から人々の生命や財産を守り、危機管理に関する学術的・技術的研究開発ならびに人材育成に取り組んでおります。今後も各々の分野から、防災教育研究活動に邁進したいと考えております。



<機構の概要> 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構



令和3年度目標達成に向けた課題及び重点実施事項 危機管理教育研究機能強化と地域強靱化研究拠点の形成



将来的構想(R4年度以降)

- 文理融合型「危機管理学分野プログラム」の開設と「四国の防災拠点形成」
- 危機管理教育研究/地域強靱化連携支援「四国・全国・アジア拠点」の構築と「地域貢献」



■ II.2021 年度 活動状況

1.研究スタッフ

専任教職員

機構長	吉 田 秀 典	副学長 (危機管理・学術・特命担当)
顧 問	白 木 渡	香川大学名誉教授
危機管理先端 教育研究センター	長 谷 川 修 一	副機構長・センター長・特任教授
	野 本 粹 浩	副センター長・特命教授
	萩 池 昌 信	特命教授
	藤 目 浩 二	客員教授
	豊 島 明 日 香	技術補佐員
	鶴 田 聖 子	技術補佐員
	落 合 陽 子	技術補佐員
	近 藤 あ す 香	事務補佐員
地域強靱化 研究センター	金 田 義 行	副機構長・センター長・特任教授 学長特別補佐
	藤 澤 一 仁	副センター長・特命教授
	磯 打 千 雅 子	特命准教授
	本 山 紘 希	特命准教授
	高 橋 真 里	技術補佐員
	塩 田 浩 子	技術補佐員
	藤 川 幸 子	事務補佐員
企画調整室	藤 澤 一 仁	室長
	谷 綾	事務補佐員

併任教員

寺 尾 徹	教育学部・教授
轟 木 靖 子	教育学部・教授
鹿 子 嶋 仁	法学部・教授
安 井 敏 晃	経済学部・教授
黒 田 泰 弘	医学部・教授
芳 我 ち よ り	医学部・教授
平 尾 智 広	医学部・教授
野 口 修 司	医学部・准教授
石 塚 正 秀	創造工学部・教授
井 面 仁 志	創造工学部・教授
梶 谷 義 雄	創造工学部・教授
紀 伊 雅 敦	創造工学部・教授
末 永 慶 寛	創造工学部・教授
野 々 村 敦 子	創造工学部・教授
林 敏 浩	創造工学部・教授
山 中 稔	創造工学部・教授
吉 田 秀 典	創造工学部・教授
岡 崎 慎 一 郎	創造工学部・准教授
高 橋 亨 輔	創造工学部・准教授
地 元 孝 輔	創造工学部・准教授
中 島 美 登 子	創造工学部・准教授
宮 本 慎 宏	創造工学部・准教授
荒 木 裕 行	創造工学部・講師
竹 之 内 健 介	創造工学部・講師
玉 置 哲 也	創造工学部・講師
鈴 木 達 也	創造工学部・助教
田 村 啓 敏	農学部・教授
山 田 佳 裕	農学部・教授
松 村 伸 二	農学部・准教授

客員教授

Ganga Lal Tuladhar	ネパール国議会議員 ネパール国立トリブバン大学附属サマルパニアカデミー 危機管理学研究所 上席教員	有 川 太 郎	中央大学理工学部都市環境学科教授
Ranjan Kumar Dahal	ネパール国立トリブバン大学 地質学教室准教授	橋 本 雄 太 郎	杏林大学大学院国際協力研究科客員教授
床 桜 英 二	徳島文理大学総合政策学部教授 徳島文理大学地域連携センター副センター長	福 田 充	日本大学危機管理学部教授
馬 場 俊 孝	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 社会基盤デザイン系教授	須 見 徹 太 郎	(一社) 全国地質調査業協会連合会 専務理事
青 井 真	防災科学技術研究所地震津波火山ネットワークセンター長 レジリエント防災減災研究推進センター研究統括 総括主任研究員	高 橋 成 実	国立研究開発法人防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター副センター長
野 田 利 弘	名古屋大学減災連携研究センター教授 副センター長	阪 本 真 由 美	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
堀 宗 朗	国立研究開発法人海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門長	目 黒 公 郎	東京大学生産技術研究所教授 東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学 国際研究センターセンター長
松 尾 裕 治	株式会社熊谷組中四国支店 常勤顧問	Huey-Chu Huang (黄蕙珠)	国立中正大学教授
高 嶋 博 視	博海堂株式会社 代表取締役	渡 辺 研 司	名古屋工業大学大学院教授
平 原 和 朗	京都大学名誉教授	中 野 孝 教	総合地球環境学研究所名誉教授

客員准教授

宮 本 崇	山梨大学工学部土木環境工学科准教授
-------	-------------------

2.危機管理先端教育研究事業の実施

(1) 地域防災リーダー養成

香川大学では、学部学生および社会人の方に対して、それぞれ防災に関する知識を習得し、防災士の受験資格を取得するための教育プログラムを、実施しています。

学部学生に対しては全学部の学生を対象に、前期は防災リテラシー養成講座として災害発生のメカニズムに関する基礎的な内容、後期は防災コンピテンシー養成講座として身近でできる防災対策などに関する実践的な内容の講義を実施しています。また、この2講座を受講し防災士資格を取得した2年生以上の学生を対象に、前期で防災ボランティア講座として災害時の被災地支援や平時の地域防災活動等の防災ボランティア活動に必要な「広範な人文・社会・自然に関する知識」を習得し、後期で防災ボランティア実習として防災ボランティア活動に必要な基本技術を身につけることで、防災ボランティア活動の中心として活動できる人材育成を目指しています。

第1Q：「防災リテラシー養成講座（災害を知る）A」

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	4/15	ガイダンス（防災士に期待される活動(21)）	磯打 千雅子	創造工学部・四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下、危機管理機構）	
2	4/22	近年の主な自然災害(補1)	高嶋 博視	香川大学客員教授 元横須賀地方総監（海将）	外部招聘講師
3	4/29	火山災害(4)	山中 稔	創造工学部・危機管理機構	
4	5/6	災害とライフライン(13)	野本 稔浩	危機管理機構	
5	5/13	災害と交通インフラ(13) －四国の防災対策－	福島 奨	国土交通省四国地方整備局	出前講座
6	5/20	土砂災害(3)	長谷川 修一	危機管理機構	
7	5/27	火災と防火対策(5)	橘 裕治	高松市消防局消防防災課	出前講座
7.5	6/3	災害情報の活用と発信(8)	木原 光治	四国新聞社編集局	外部招聘講師
8	6/3	第1Q末試験	磯打 千雅子 井面 仁志 野々村 敦子 竹之内 健介	創造工学部・危機管理機構	

第2Q：「防災リテラシー養成講座（災害を知る）B」

回	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	6/10	地震・津波による災害(1)	金田 義行	危機管理機構	
2	6/17	気象災害・風水害(2)	寺尾 徹	教育学部・危機管理機構	
3	6/24	災害関連情報と予報・警報(6)	高松地方気象台職員	高松地方気象台	出前講座
4	7/1	行政の災害対応と危機管理(9)	溝渕 哲生	香川県危機管理総局危機管理課	出前講座
5	7/8	避難所の設置と運営協力(18)	高橋 真里	危機管理機構	
6	7/15	自主防災活動と地区防災計画(17)	磯打 千雅子	創造工学部・危機管理機構	
7	7/22	演習	松尾 裕治	香川大学客員教授	
7.5	7/29	演習	長谷川 修一	危機管理機構	
8	7/29	第2Q末試験	井面 仁志 野々村 敦子 磯打 千雅子 竹之内 健介	創造工学部・危機管理機構	

2 学期：主題C実践型「防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）」

	月日	講義内容	講師	所属	備考
1	10/7	ガイダンス 被害想定・ハザードマップと避難情報(7)	野々村 敦子	創造工学部・ 危機管理機構	
2	10/14	防災訓練 －災害イメージ訓練－(補 4)	梶谷 義雄	創造工学部・ 危機管理機構	
3	10/21	復旧・復興と被災者支援(11)	原 孝吏	倉敷市副市長	外部招聘講師
4	10/28	耐震診断と補強(補 2)	宮本 慎宏	創造工学部・ 危機管理連構	
5	11/4	避難と避難行動 風水害・土砂災害等への備え(16)	井面 仁志	創造工学部・ 危機管理連構	
6	11/11	地震・津波への備え(15)	久保 雅和	香川県防災士会	外部招聘講師
7	11/18	行政の災害救助・応急対策(10) －高松市の取り組み－	為定 典生	高松市総務局 危機管理課	出前講座
8	12/2	避難所の設置と運営協力，仮設住宅 の暮らし(18)	中島 美登子	創造工学部・ 危機管理機構	
9	12/9	企業・団体の事業継続(14)	磯打 千雅子	創造工学部・ 危機管理機構	
10	12/16	災害医療(12)	黒田 泰弘	医学部附属病院救 命救急センター・ 危機管理機構	
11	12/23	地域の防災活動(19)	岩崎 正朔	かがわ自主ぼう連 絡協議会	外部招聘講師
12	1/13	災害ボランティア活動(20)	南条 克哉	香川県社会福祉協 議会	外部招聘講師
13	1/20	惨事ストレスと心のケア(12)	浅海 明子	香川カウンセリン グセンター	外部招聘講師
14	1/27	災害と損害保険(補 3)	内藤 潤	日本損害保険 協会四国支部	出前講座
15	2/3	災害と危機管理	白木 渡	名誉教授	
16	2/10	期末試験，修了式	井面 仁志 野々村 敦子 磯打千 雅子 地元 孝輔	創造工学部・ 危機管理連構	
	2/19	防災士認定試験（希望者）	日本防災士機 構	日本防災士機構	



【一般】

社会人向けには、10～12月の間、月1～2回(5コマの講義)の集中講義形式で、公開講座として同様のプログラムを提供しています。講師陣は香川大学の教員だけではなく、防災関係機関の第一線で活躍中の方々にも加わっていただくことで、充実した講義内容となっています。

令和3年度も、創造工学部、地域連携・生涯学習センターと連携して、防災士養成講座（学生対象講座及び社会人対象）を開講し学生85名、社会人124名、合計209名の防災士資格試験合格者を輩出しました。防災士養成講座を開始した平成21年度から令和3年度までの13年間で学生691名、社会人1,531名、合計2,222名の合格者を輩出しました。

防災士養成講座（短期）

月日		NO	時限	講 義 内 容	講 師
第 1 回 10 月 2 日 (土)	3 3 3 3 0 0 1 3 講 講 義 義 室 室	1	1	ガイダンス 防災士に期待される活動	危機管理機構 長谷川 修一 危機管理機構 藤澤 一仁
		2	2	地域の防災活動	かがわ自主ぼう連絡協議会 会長 岩崎 正朔
		3	3	災害ボランティア活動	香川県社会福祉協議会 南条 克哉
		4	4	被害想定・ハザードマップ	創造工学部・危機管理機構 野々村 敦子
		5	5	クロスロード(演習)	創造工学部・危機管理機構 野々村 敦子
第 2 回 10 月 16 日 (土)	3 3 3 3 0 0 1 3 講 講 義 義 室 室	6	1	惨事ストレスと心のケア	香川カウンセリングセンター 所長 浅海 明子
		7	2	災害医療	医学部附属病院救命救急センター長・危機管理機構 黒田 泰弘
		8	3	避難と避難行動	創造工学部・危機管理機構 井面 仁志
		9	4	地震・津波のしくみと被害	危機管理機構 長谷川 修一
		10	5	風水害・土砂災害と対策	危機管理機構 長谷川 修一
第 3 回 11 月 20 日 (土)	3 3 3 3 0 0 1 3 講 講 義 義 室 室	11	1	防災気象情報の知識と活用 —公的機関による予警報—	教育学部・危機管理機構 寺尾 徹
		12	2	近年の自然災害に学ぶ —災害現場からの教訓—	危機管理機構 客員教授 高嶋 博視
		13	3	行政の災害対応 —香川県の防災対策—	香川県危機管理総局危機管理課副課長 溝渕 哲生
		14	4	事業継続計画と地区防災計画	危機管理機構 磯打 千雅子
		15	5	災害と保険	日本損害保険協会四国支部課長代理 内藤 潤

防災士養成講座（短期）

月日		No	時限	講義内容
第4回 12月4日 (土)	330013 講義室	16	1	耐震診断と耐震補強 名誉教授 松島 学
		17	2	先人の教えに学ぶローテク防災術(演習) 危機管理機構 客員教授 ((株)熊谷組四国支店) 松尾 裕治
		18	3	災害情報の活用と地域防災 香川県防災士会 久保 雅和
		19	4	地震に関する知見・情報 危機管理機構 金田 義行
		20	5	ライフライン・交通インフラの確保 危機管理機構 藤澤 一仁
第5回 12月18日 (土)	330013 講義室	21	1	行政の災害対応 －高松市の防災対策－ 高松市総務局次長危機管理課長 為定 典生
		22	2	緊急救助技術を身につける 日本赤十字社香川県支部事業推進課課長 大林 武彦
		23	3	地域の災害対策と危機管理 名誉教授 白木 渡
			4	修了式 危機管理機構 長谷川 修一 危機管理機構 藤澤 一仁
			5	防災士試験 NPO 法人日本防災士機構



授業風景（実習の様子等）

(2) 機能別消防団の運営

平成 26 年 7 月（2014 年）に高松市消防局の機能別分団（香川大学防災サポートチーム）として発足しました。機能別分団とは、大規模災害時に、市の指定避難所になっている幸町キャンパス第二体育館及び林町キャンパス食堂で避難者を受け入れ、避難所運営のサポートを行うものです。また、情報伝達支援・応急救護・備蓄物資や救援物資等の配布及び管理など、多岐にわたる活動が期待されます。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で制限がありましたが、感染対策を取ったうえで避難所運営訓練を実施しました。また、オンラインを活用した模擬参集訓練を実施する等、工夫して活動を行いました。



講義の様子



(3) メンタルヘルスアップリーダー養成

香川大学では2010年度より「メンタルヘルスアップリーダー養成」を行っています。2018年3月に香川県が定めた「いのち支える香川県自殺対策計画」の一環として行っており、2021年度は、民生委員児童委員、保健委員、婦人会会員等を対象とした講習会を実施しました。一部の研修会については新型コロナウイルス感染症の蔓延のため中止となりました。

① リーダー養成講座

本事業で作成した資料集を用いて、地区民生委員を対象にリーダー養成講座を開催しました。「気づく・聴く・つなぐ」を理解し実践できる人材の養成を目的としています。

・開催回数（受講者数）1回（48名）

② サポーター講座

養成講座を修了したリーダーが地域住民を対象にサポーター講座を開催して、自殺の現状と予防の知識を地域の身近な人へ声をかけること、話が聴けることの演習をしました。

また、リーダーがサポーター講座を開催出来るようにするための支援を行いました。

・開催回数（受講者数）1回（計40名）

③ 交流集会

養成したリーダーを対象に、「最新の自殺の現状」、「抑うつ状態の基本的理解」、「自分と他人の違いを知る」、「問題を発見する」、「カウンセリングの基本・話をよく聴く」、「連携先を考える」、「サポーター講座開催」についてブラッシュアップを行いました。

・開催回数（受講者数）1回（40名）

④ 香川県自殺対策協議会への参画



(4) 「四国防災・危機管理プログラム」実施による防災・危機管理専門家養成

■「四国防災・危機管理プログラム」実施による防災・危機管理専門課の養成

香川大学と徳島大学が連携して実施する「四国防災・危機管理プログラム」は、東日本大震災の教訓を踏まえて、また大規模広域災害やグローバル化する危機に対して、迅速な状況把握のもとに適切な判断・意思決定を行い、減災・復旧・復興・組織再生へ向けて適切に対応できる専門家を養成する取り組みです。この事業のステークホルダーである香川県及び徳島県と連携し、実践力を備えた専門家の養成を目指しています。また、今後四国の国立 5 大学連携事業として展開することを目指しています。

平成 25 年度に開始した本プログラムの修了生は、令和 3 年度までに 213 人を数え、行政、企業、医療、学校の各分野において、職場や地域における防災リーダーとして活躍しています。

近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が想定される四国地方においては、防災・危機管理の専門家の養成は必要性かつ緊急性の高い重要な事業です。引き続き、四国における関係機関との連携を深め、地域防災力の向上に繋がる事業として取り組んでいきます。

■令和 3 年度の取り組み

四国防災共同教育センターでは、平成 25 年 4 月より香川・徳島の両大学で、「学校防災・危機管理マネージャー養成」、「行政・企業防災・危機管理マネージャー養成」、「救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成」の 3 コースで人材養成に取り組んで来ていました。

平成 29 年度からは、「行政・企業」と「救急救命」の 2 つのコースを「行政・企業・医療」の一つのコースとして受講生を募集することとし、「行政・企業・医療のリスクマネジメント」、「事業継続計画（BCP・MCP）の策定と実践」として実施する体制としました。

また、平成 30 年度からは授業の質を高める意味から、香川大学と徳島大学の 2 大学で個別に講義を行っていた「行政・企業・医療のリスクマネジメント」、「事業継続計画（BCP・MCP）の策定と実践」について、2 大学の講師が連携して一つのカリキュラムを構成して実施するよう見直しました。

令和 2 年度からは、新型コロナウイルス感染症対策として、講義は全て Zoom によるオンライン授業となり、令和 3 年度からは、ブレイクアウトルームやスライドの共同作成など、履修生同士のコミュニケーションを図る機会を取り入れた授業が行われました。

さらに、令和 4 年度からはオンライン授業を基本とすることとし、より広範囲からの履修生を受け入れることのできる環境が整いました。



■令和3年度の受講申込、修了状況

令和3年度は、行政・企業・医療コース23名（大学院生14名、社会人9名）の受講申込がありました。また、令和4年3月、第8期了生として行政・企業・医療コース17名（大学院生6名、社会人12名）が本プログラムを修了し、災害・危機対応マネージャーの資格を付与しました。



■防災・危機管理人材養成シンポジウム

「四国防災・危機管理プログラム」最終成果報告及び第8期生修了記念として、第10回「防災・危機管理人材養成シンポジウム」を令和4年3月16日(水)、Zoom及びYouTubeによるオンライン配信によって実施しました。



■修了生の活動状況 「災害・危機対応マネージャーとして」

富谷 洋光

宮崎市危機管理部地域安全課、地域振興部地域コミュニティ課地域事務所併任
主任主事地域防災コーディネーター（2019年4月～現在）
防災士、災害・危機管理対応マネージャー（2020年度修了、第7期生）

私は地域防災コーディネーターとして、地域自治区内の自主防災組織の結成及び育成、地域自治区内の防災訓練等支援、地域の地縁団体等との情報交換、連絡調整、災害時における関係機関との連絡調整、地域防災の推進に関する業務を担当しています。

また、地域コミュニティ事業地域まちづくり推進委員会と連携し、各部会、専門学校、小学校等の防災教育にも関わり、「防災まちづくり」「災害に強いひとづくり」を推進しています。

年間30件ほど依頼を受ける防災講座、防災セミナー、防災ワークショップには「四国防災・危機管理プログラム」で得た知識、四国防災共同教育センターの情報支援を活かして、防災に関する情報・ツールを提供し、新型コロナウイルス感染症の影響下では、オンラインを活用した防災訓練、防災講座等を実施しております。

これから業務、活動領域が拡大しそうです。今後もこれまで同様、最新の情報支援をよろしくお願いします。



(5) 学校防災アドバイザー派遣事業

香川県教育委員会が、各学校(園)の防災体制の整備や防災教育の更なる充実を図る事を目的に、防災の専門家を学校防災アドバイザーとして派遣する事業を平成24年にスタートしました。香川大学では香川県教育委員会の依頼を受け、毎年講師を派遣、防災アドバイザー派遣希望校に対し、本機構、日本技術士会四国本部および香川県防災士会が協同でアドバイスを実施しております。

令和3年度は6月22日～12月21日の期間で事業を実施しアドバイザーの派遣は17校(園)、延べ21回となりました。主な助言内容については、様々な想定や地域の防災関係機関と連携した避難訓練、防災マップづくり、災害発生時のボランティア活動(避難所運営訓練等)、防災教育への助言内容等、多様な項目についてアドバイスを行いました。各学校(園)においては災害環境の把握、避難訓練の見直し、教職員の防災意識の向上など、様々な成果が得られました。

2021年度学校防災アドバイザー派遣実施状況

番号	学校所在の市町名	学校(園)等名	本事業の活用希望理由(簡潔に)	利用希望回数	実施予定日	実施予定時間
1	綾川町	綾上小学校	本校はダム放流や決壊により浸水するおそれがある。その為、大地震が起きた時には運動場に避難するのではなく、2階に避難するという状況も想定される。そういった避難訓練について指導・助言をお願いしたい。また、川やため池、ダム等が近くにあることから、水難事故時の対応や着衣水泳等の自分の身を守る方法を教えていただきたい。	1回	6月22日	15:10～16:30
2	琴平町	琴平小学校	実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	1回	7月1日	9:00～10:00
3	坂出市	加茂幼稚園	大規模災害時には隣接する小学校と合同で保護者への引き渡しをするなど連携を図っているが、小学校までの連絡通路も狭く、災害時の移動に不安がある。また、障害のある子どもの避難方法について助言をいただきたい。	1回	7月2日	13:20～15:00
4	東かがわ市	丹生こども園	昨年度は、園周辺の状況や園の立地状況、園内の危険箇所を知ることができた。今年度は、実際に園児の避難訓練の様子を見て頂き、今後の訓練、園児の安全確保に活かしたい。	1回	7月15日	9:30～11:30
5	観音寺市	大野原中学校	1回目は教職員を対象とした研修(1時間)及び危機管理マニュアル等への助言(管理職のみ30分)を希望します。2回目は避難訓練計画への助言及び訓練後の助言をお願いします。	2回	8月5日	14:00～15:30
6	琴平町	象郷小学校	学校の危機管理に対して専門家からの視点で助言をいただくとともに、避難訓練にいかせるように職員研修で指導いただきたい。1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	9月1日	15:15～16:30
7	坂出市	林田幼稚園	本園の災害環境と再度確認し、園内避難訓練を通して、避難経路の見直しや誘導に対する助言。また危機管理マニュアルの見直しについてご指導をお願いしたい。	1回	9月14日	13:45～16:00
8	坂出市	東部小学校	4年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地域を歩き、これまで作成した防災マップを見直しました。その防災マップを活用した防災活動や市の防災マップとの比較や自主防災組織や市危機管理室との連携についてご指導いただきたいと思います。	2回	9月28日	13:30～15:30
9	琴平町	象郷小学校	学校の危機管理に対して専門家からの視点で助言を頂くとともに、避難訓練にいかせるように職員研修で指導いただきたい。1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いしたい。	2回	9月29日	10:00～11:00
10	多度津町	多度津高校	7月に地震による避難訓練、12月に防災・防火訓練を実施する予定ですが、コロナ禍に対応した実効性のある訓練事例があれば講話として紹介していただけないかと考えます。	1回	10月8日	8:50～9:40
11	坂出市	東部小学校	4年生の総合的な学習の時間に防災教育を実施しており、昨年度地域の自主防災組織の方々と一緒に地域を歩き、これまで作成した防災マップを見直しました。その防災マップを活用した防災活動や、市の防災マップとの比較や自主防災組織や市危機管理室との連携について、ご指導いただきたいと思います。	2回	10月12日	13:40～15:20
12	高松市	大野小学校	地域の防災士会及び担任教師が、6年生授業「応急手当 体験活動」を、運動場にて実施。活動終了後に、防災アドバイザーから講評いただく。	2回	10月20日	8:10～11:35
13	高松市	大野小学校	地域の防災士会及び担任教師が3年生授業「水の危険性を理解する」を実施。活動終了後に、防災アドバイザーから講評いただく。	2回	10月22日	8:10～10:10
14	高松市	三溪幼稚園	地域の安全に関する状況を職員がより深く理解することで園児の命を守るよう、避難訓練に対する助言をお願いしたい。	1回	10月22日	9:30～11:00
15	高松市	国分寺北部幼稚園	地震・火災の避難訓練を予定しています。職員の動きを参観していただき、指導・助言をお願いしたい。	1回	10月27日	10:00～11:00
16	丸亀市	飯野小学校	本校の避難訓練について改善点等を分析していただき、児童・教職員の防災意識を高めたい。	1回	11月1日	9:30～10:15
17	高松市	川東小学校	学校の置かれている災害環境や地域の自主防災組織等との連携の第一歩として、また本校の防災活動の助言をいただきたいと思っております。	1回	11月10日	9:30～11:15
18	高松市	多肥幼稚園	保護者引き渡しの避難訓練を予定しておりますので、園の防災計画、危機管理マニュアルも含めて、指導・助言をお願いしたいです。	1回	11月16日	12:45～15:00
19	高松市	古高松南小学校	新川の沿いの低地にある本校は、大きな地震が発生した場合に津波だけでなく、液状化等の危険性も高いため地域ぐるみの訓練が必要と考える。そこで来年度、地域の自主防災組織等との連携した防災訓練を希望しており、具体案について助言をお願いしたい。	1回	11月24日	10:00～11:00
20	観音寺市	大野原中学校	1回目は、教職員を対象とした研修(1時間)及び危機管理マニュアル等への助言(管理職のみ30分)を希望します。2回目は避難訓練計画への助言及び訓練後の助言をお願いします。	2回	11月26日	11:30～12:20
21	高松市	仏生山小学校	昨年度より、仏生山校区コミュニティ協議会と仏生山小学校が香川大学の岩原先生の指導の下『防災町歩き』に協働して取組、通学路の安全点検や危険箇所の確認を行っている。本年度は安全点検を防災教育とつなげ、地域と連携した危機管理体制を確立するため、岩原先生の指導を是非希望したい。	2回	12月21日	15:30～16:30

(6) 想定外災害再現・教育訓練実施

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、東日本大震災の教訓をもとに想定を超える災害発生時において「適切な状況判断」、「素早い意思決定」、「速やかな行動」ができる、実践力（コンピテンシー）を備えた人材の育成を目的に、「災害状況再現・対応能力訓練システム」を開発し、2013年6月11日に公開訓練を実施しました。体験可能なコースは、「学校防災コース」、「応急手当・救命コース」であり、希望者からの申し込みに応じて訓練を実施しています。

2021年度は、計14回の研修を実施しました。受講者・見学者194名、そのうち教員役の体験者39名です。2021年度の利用状況の内訳を表1のとおりです。新型コロナウイルス感染症の流行もあり、中止となった研修もありました。研修は感染症対策とりながら実施しました。1回の訓練体験者数を15名程度に制限し、1日に複数回研修を実施するなどの対応をとりました。

2021年度利用状況の内訳

分類	詳細
学校関係	高松北高等学校、中部養護学校、香川県教育センター、教員免許状講習、穴吹医療大校
地域組織	－
企業	－
大学/研究機関	NICT（情報通信研究機構）
国際関係	－
実習	ネクストプログラム防災ボランティア実習



システムの概要

想定外の災害に対応するための訓練システムを開発しています。本訓練システムは、VR（バーチャルリアリティ）を用いて想定を超える災害状況を再現し、その危機的な状況の中で訓練体験者が置かれた状況を適切に判断し、意志決定を行い、行動を起こす、という一連の訓練を経て、実践力の習得を目指します。



訓練の様子

3.地域強靱化研究・地域貢献事業の実施

(1) 香川地域継続検討協議会の運営

大規模自然災害により、個々の組織にとどまらない広域的な被害が発生した場合でも、香川の地域機能を継続するため、香川大学は平成23年度に「香川地域継続計画（DCP）勉強会」を立ち上げ、それを発展させる形で平成24年5月「香川地域継続検討協議会」（以下、協議会）を設立しました。協議会には、国、香川県、高松市や商工会等の他、電力、ガスなどのインフラを担う企業が参加しています。四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下、危機管理機構）は事務局を務め、関係機関と連携し、協議会を運営しています。協議会や勉強会の定期開催のほか、機能別にアクション項目を設定し、関係機関の連携を踏まえた検討や情報共有を実施し、検討結果は「香川地域継続計画（DCP）骨子」に随時、反映しています。

平成28年度までは、重要機能ごとに幹事組織（香川県、香川大学、四国地方整備局、四国運輸局）を割当て、各アクション項目の取組みを進めておりましたが、各組織の役割分担が必ずしも明確ではなく、具体的な取組みが進みにくい状況となっていたため、平成29年度以降は、幹事組織制度を見直し、香川県及び香川大学が実施する取組みをベースとすることにしました。特に、県が実施する項目については、実務的に実施できる内容への見直しを行うとともに、毎年度、優先して実施する項目及び担当組織の明確化を行うことにより、関係機関との連携を深めながら、着実な取組みにつなげることを目指しています。

令和3年度の協議会では、構成機関の災害時の活動内容（債務）について、情報共有を図りました。香川県からは「四国4県外からの支援が不足する場合を考慮した四国4県による相互応援体制の検討について」話題提供がありました。香川大学は、現在開発中の地域インパクト分析（DIA）手法の提案、分析事例（長尾地区）、今後の開発予定等について紹介しました。

協議会ワーキング第2回では、応援・受援、ライフラインについてのワークショップを実施し、活発な意見交換が行われました。応援・受援は「命と心を守る」→「経済を回す」の視点も考えておく必要があるとの意見、ライフラインは、資材置き場の確保等の空間資源活用整理や災害廃棄物処理の必要性について意見が出されました。危機管理機構では、これまで協議会（WG含む）35回、勉強会28回、シンポジウムを9回開催しております。



協議会ワーキング第2回の様子

●2021年 香川地域継続検討協議会（協議会WG含む）

回数	開催日	参加人数	議事内容
協議会WG第1回	5月26日（水）	17名	① WS開催の趣旨説明とWSのし方説明 ② 2班に分かれてオンラインWSの試行
第29回	10月26日（火）	27名	① 香川地域継続検討協議会規約の改正について ② 構成機関における災害時の活動内容（債務）の共有について ③ 香川地域継続検討協議会の進捗について ＊ 設立9周年記念シンポジウムと同時開催
協議会WG第2回	12月20日（月）	27名	① 趣旨説明・アンケート説明、 ② ワークショップ（グループワーク→全体発表）
第30回	3月25日（金）	32名	① 香川地域継続検討協議会規約の確認 ② 構成機関における災害時の活動内容（債務）の共有について ③ 水害に強いまちづくり協議会について ④ 香川地域継続検討協議会の進捗について

●香川地域継続検討協議会設立9周年記念シンポジウム

開催日		講師名	所属・役職・『テーマ』
10月26日（火） 82名参加	【第1部 活動報告】	長谷川 修一 氏	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先端教育研究センター長 特任教授 『四国の地域継続力向上を目指して ～香川地域継続検討協議会の活動報告～』
	【第2部 講演】 ◆基調講演 ◆トークセッション	梶谷 義雄 氏 磯打千雅子 氏 金田 義行 氏 田中 隆文 氏 浜口 勇 氏 十河 昌司 氏	香川大学創造工学部 教授 『温暖化、土砂災害リスクと地域コミュニティ』 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター 特命准教授 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター長 特任教授 名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授 小豆島町橋自治会総代/小豆島町議会議員 香川県土木部河川砂防課 課長補佐

(2) 香川地域継続首長会議の運営

南海トラフ巨大地震の発生確率が高まる中、香川県での被害軽減を図るためには基礎自治体である、県内 17 市町が適切な被害想定のもとに地域防災計画の見直し、業務継続計画の策定をはじめ地域防災力の向上に努める必要があります。そこで、香川県内 17 市町の首長を中心に国・県の行政機関及び大学が連携して平成 26 年 3 月 27 日に「香川地域継続首長会議」（事務局：香川大学）を設置し、香川県の地域継続力の向上を図ると共に、四国の緊急災害対策拠点としての機能を発揮することを目指して香川県の強靱化に取り組んでいます。設立当初より首長会議を開催、8 年目となる令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 月 25 日にオンラインにて開催いたしました。

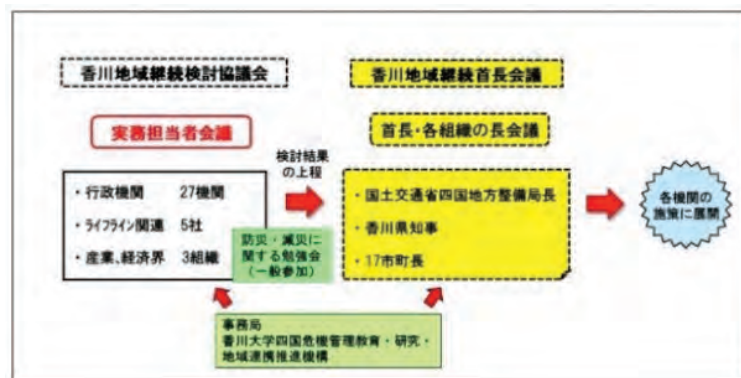
まず、当会議の会長である、香川大学、長谷川危機管理先端教育研究センター長より挨拶、続いて、浜田県知事（当時）よりご挨拶頂きました。

次に、坂出市総務部職員課危機監理室の笠井武志危機監理専門官より「人材育成～坂出市の取り組み～」についてご講演頂きました。坂出市では危機管理に資する人材育成に注力しており、スペシャリストの養成、スペシャリストによる全職員への専門研修という 2 つのフェーズで、職員の資質の向上を図っています。この 2 つのフェーズを循環的に行うことにより、市の全体的な資質が向上する仕組みになっています。規約の改定も行い、香川大学、野本危機管理先端教育研究副センター長が、本会議の委員に就きました。

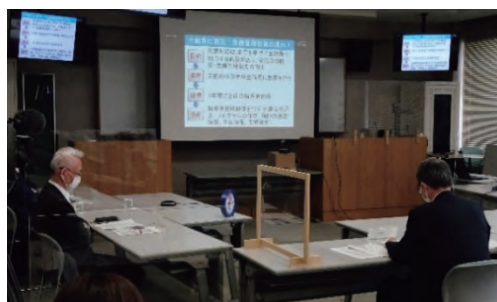
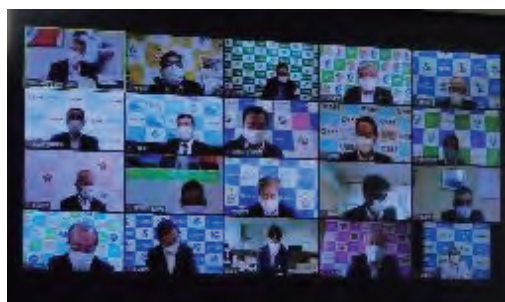
さらに、議事の報告を行いました。香川大学、藤澤地域強靱化研究副センター長から令和 2 年度「我がまちの防災危機管理の取り組み状況」に関する各首長からのご意見（まとめ）並びに香川地域継続検討協議会の活動内容、水害に強いまちづくり検討会及び市町 B C P 作成支援事業 3 つのテーマの進捗状況について、ご報告させて頂きました。

また、各首長から、「市町における防災・危機管理に資する人材育成への取り組み」をテーマに、ご意見を頂きました。職員に対する防災・危機管理に関する研修の実施や、地域住民の防災士資格取得への補助といった、各市町の職員と地域における人材育成の取り組みをご紹介頂きました。

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、今後も引き続き話題提供に努め、防災対応の検討を支援させて頂きたい、と考えております。本会議で地域継続力の向上を図ると共に、四国の緊急災害対策拠点としての機能を発揮する事を目指し香川県の強靱化に取り組んで参ります。



香川地域継続首長会議、香川地域継続検討協議会の関係



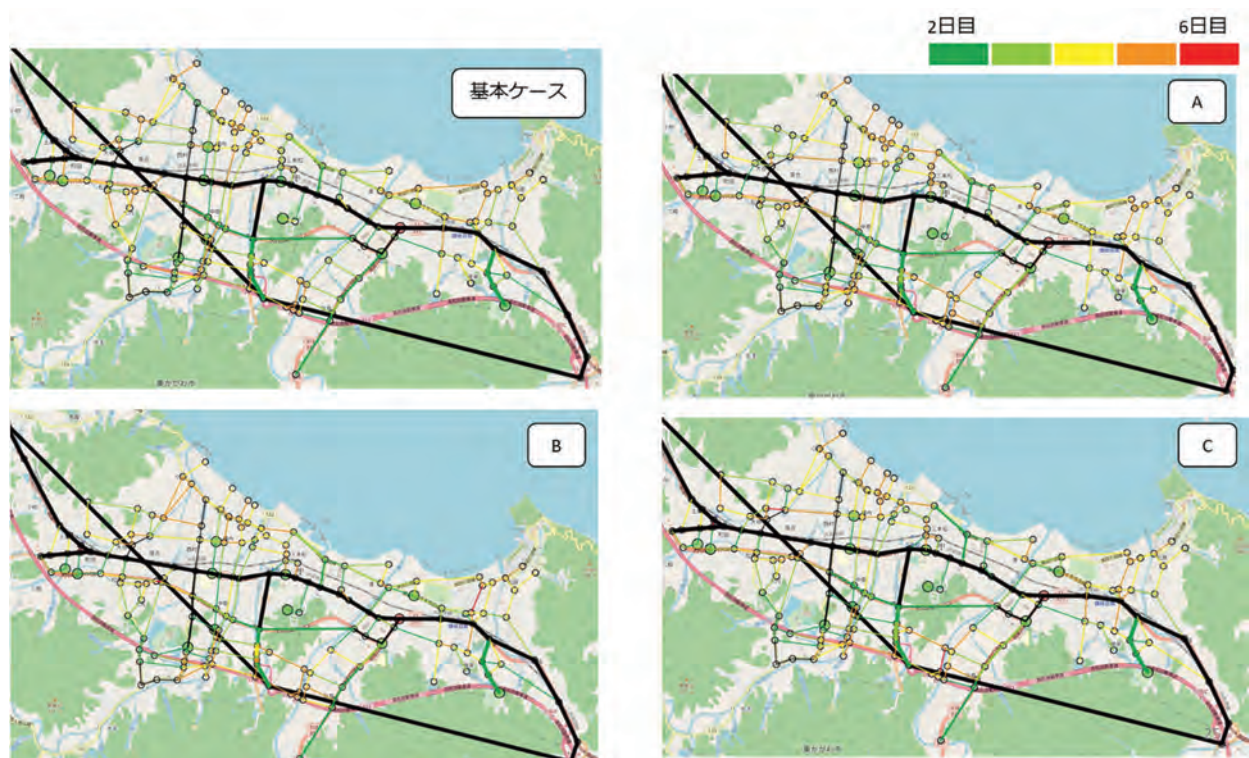
香川地域継続首長会議の様子（オンライン開催）

(3) 地域影響分析（DIA）支援システムの開発・運用

大規模広域災害において、被災からしなやか（レジリエント）に復旧するには、事前に道路ネットワークの復旧戦略を検討することが重要です。四国では県境をまたぐ広域な「四国広域道路啓開計画」や、県域規模の「香川道路啓開計画」などの道路啓開計画が策定されています。これらの計画は、災害時の復旧活動の全体方針を示すもので、特に重要な国道や県道が対象の道路となっています。しかし、被災地域の早期復旧を図る上では、地域内の建設業が上記計画の指定道路まで進出するための道路の確保や、被災地の地域住民が日常使用する生活道路の考慮も必要です。既存の道路啓開計画が有効に機能するには、市町村域規模の道路啓開計画も具体化する必要があります。

そこで、香川県道路啓開計画の長尾地区（特に東かがわ市付近）を対象とした市町村域規模の道路啓開計画の分析に取り組み、その結果を第30回香川地域継続検討協議会（2022/3/25開催）において報告しました。具体的には、香川県道路啓開計画をベースに、市内の道路の啓開（復旧）も同時に考慮した啓開計画の策定を検討しました。分析では、道路復旧のみを優先した場合、道路復旧と物資搬送を優先した場合などいくつかの啓開計画例を示しました。その結果、香川県道路啓開計画の1次優先～2次優先以外の道路について、市町としての啓開（復旧）目的を設定することも重要であることを示しています。

地域影響分析(DIA)支援システムでは、災害時の道路ネットワークに対する最適な復旧シミュレーションなど検討できるので、災害時の意思決定支援の課題がありましたらご連絡ください。

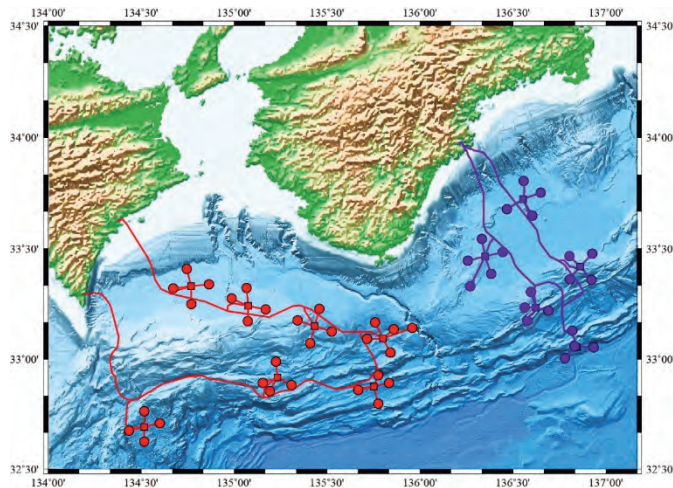


図：道路啓開と物資搬送（二次物資拠点＝避難所）の2つの目的を同時に優先した計画の策定事例。図中の線が道路を表しており、黒色は1日目に啓開済、緑色～赤色は2日目から6日目に啓開される道路を表している。道路啓開のみを優先する基本ケースと比べて、物資搬送を考慮したA～Cのパターンでは、避難所に至る道路も早期に啓開している。これらの道路は香川道路啓開計画の指定外の道路であるが、全体の啓開日数に大幅な遅れは見られない。市町としての復旧戦略を事前に検討しておくことが重要であると考えられる。

(4) 地震・津波観測監視システム（DONET）情報の利活用

地震・津波観測監視システム（DONET）は、熊野灘沖の観測網（DONET1）と紀伊水道海域の観測網（DONET2）で構成され、全体で 51 の観測点を設置しています。各観測点には地震計（強震計、広帯域地震計）、水圧計（水晶水圧計、微差圧水圧計）、温度計ならびにハイドロフォン（水中マイクロホン）が設置されています。また、土佐沖から日向灘海域で新たな海底観測 N-NET の設置が予定されています。

今年度は DONET 表示機能強化を行い、DONET 情報の利活用を推進しました。今後 DONET をはじめ観測データの利活用の一層の促進が期待されます。



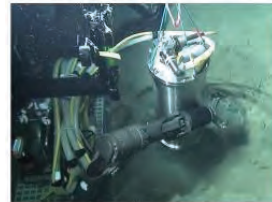
DONET の展開図



地震計パッケージと圧力センサーパッケージ



堆積物除去して地震計パッケージの埋設孔を作成



地震計パッケージを埋設孔内に設置

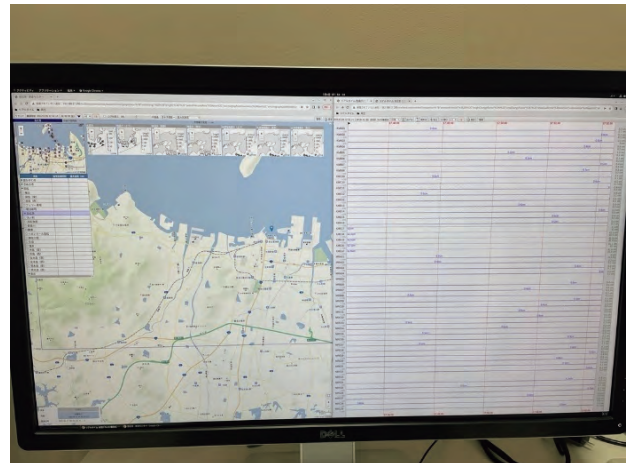


砂で埋設孔と筐体の隙間を後埋設

DONET の設置



DONET の OS を Linux に更新



機能更新 表示例

(5) まちなかカフェ開催による地域防災力向上

高松市主催「高松市防災まちカフェ」の開催に協力し、講師を派遣しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面とオンライン（zoom）を活用し開催しました。対面とオンライン併用での開催に、参加の選択肢が増えたことで、気軽に参加できるというご意見や、対面参加が少なく活気に欠けるというご意見も頂きました。

また、様々な分野の話題提供に、参加者からは「新しい知識を得ることができた」「事前の備えがいかにかつてを学んだ」等の感想があがりました。

地域の防災力向上を目指して、このようなカフェ活動を継続していく予定です。



防災まちカフェの様子

2021 年度 防災まちカフェ開催日程表

開催日	時間	講師	タイトル
4月19日(月)	10:30～11:30	藤澤 一仁	法と防災について～法体系に見る基礎自治体の役割～
5月17日(月)	10:30～11:30	長谷川 修一	災害が腑に落ちるまち歩きの方法
6月16日(水)	10:00～11:00	野本 粹浩	行政（公助）から出される防災情報と自助について（避難を決めるのは自分自身）
7月7日(木)	11:00～12:00	荒木 裕行	液状化による被害とその対策
8月10日(月)	10:30～11:30	松村 伸二	防災・減災と身近な植生
9月16日(木)	10:00～11:00	磯道 智也	災害廃棄物はどうやって処理されるの？
10月24日(日)	9:00～12:00	長谷川 修一	防災まち歩き
11月22日(月)	10:00～11:00	岡崎 慎一郎	丈夫で長持ちする建物のつくりかた
1月14日(金)	10:00～11:00	芳我 ちより	防災からはじめる地域づくりと健康づくり—他人のためは自分のため—
2月16日(月)	13:30～14:30	地元 孝輔	「震度7の揺れとは？～正しく恐れるために～」

(6) 令和3年度小豆島町危機管理研修プログラム

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では小豆島町役場の危機管理体制の強化を目的に、基礎自治体の防災力や危機管理能力を高める人材育成を行うため「小豆島町危機管理等研修プログラム」を実施しました。研修プログラムは、計画段階から小豆島町危機管理室と協議を重ね、小豆島町の災害の歴史や地勢等を盛り込んだ内容とし、DIG（災害図上訓練）や HUG（避難所運営ゲーム）を取り入れた訓練を行いました。参加者からは、「災害発生時の対応や求められる役割をイメージ出来た」、「訓練を通じてチームワークの重要性を再認識し、発災時に組織内でスムーズに動くためのチームワークを日ごろから訓練していきたい」、といった反響を頂きました。



令和3年度 小豆島町危機管理研修プログラム

番号	日程	会場	講義名	講義時間
1	6月9日(水) 10:20-開講式 10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	開講式	10分
			小豆島の災害について — 土砂災害・地すべりの歴史 —	90分
2	6月29日(火) 10:30-12:00	町役場本館 3階大会議室	管理職等を対象とした職員研修 災害対策本部等設置時には各課所属長により構成されるため、防災計画等を基本とした各課所掌事務を認識し、危機管理能力の向上を図る。	90分
3	6月29日(火) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	危機管理について — 小豆島の危機管理とは —	90分
4	7月14日(水) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	防災と法について — 法体系に見る基礎自治体の役割 —	90分
5	7月29日(木) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	行政のリスクマネジメントについて — 小豆島のリスクマネジメントを考える —	90分
6	8月4日(水) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	業務継続計画と地区防災計画について — BCMのすすめ、地区防災計画のすすめ —	90分
7	8月5日(木) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	最近の地震活動について — 南海トラフ巨大地震の最前線 —	90分
8	9月28日(火) 13:30-15:30	町役場本館 3階大会議室	過去の災害から学ぶ	120分
9	10月11日(月) 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	PFA(サイコロジカル・ファースト・エイド)について — 災害時・こころの支援 —	90分
10	11月1・2・4・5日 13:00-17:15	町役場本館 3階大会議室	普通救急救命講習Ⅱ(4時間コース)	240分
11	11月10日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30	町役場本館 3階大会議室	防災・危機管理実習:HUG訓練 — 避難所運営マニュアルの応用 —	180分
12	11月25日(木) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:50-16:20 16:20-閉講式	町役場本館 3階大会議室	防災・危機管理実習:DIG訓練 — 小豆島町災害対策本部運営訓練 — ※プログラム総括として位置づけ	270分
			閉講式 — 修了証授与 —	15分



研修の様子



総括 DIG 訓練の様子

4.四国国立 5 大学連携による危機管理教育研究推進と拠点形成

(1) 四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会の開催

令和 3 年度は愛媛大学が事務局となり、四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会(以下協議会)を 3 回開催しました。第 26 回協議会では、各大学での事前復興の取り組みについて情報共有を図りました。第 27 回協議会では愛媛大学のネトラ議長より、四国内の 5 国立大学法人と国土交通省四国地方整備局との防災・減災・復興に係る包括的連携・協力に関する協定(案)についての説明がなされ、それを受けた四国国立大学協議会(令和 4 年 2 月 28 日)で、四国地方整備局との連携協定が提案されました。各機関で協議の結果、四国国立 5 大学と四国地方整備局との協定が締結される運びとなり、当該協定書の調印式も行われます。

四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会 (令和3年度) * 全てオンライン(Zoom)にて実施

	開催日	議 題
第26回	6月28日	(1) 議事要旨の確認、(2) 令和 2 年度四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会について、(3) 四国5大学連携の進め方について
第27回	1月14日	(1) 議事要旨の確認、(2) 四国国立 5 大学と国土交通省四国地方整備局との防災・減災・復興に係る包括的連携・協力について
第28回	3月22日	(1) 議事要旨の確認、(2) 令和 3 年度四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会報告について (3) 令和 4 年度の議長について

(2) 四国官学連携防災・減災協議会の開催

香川大学が主管となり、四国 4 県の「実行力」と国立 5 大学の「知(地)」とを融合した、新たな「官学連携」事業として平成 30 年 10 月に「四国官学連携防災・減災協議会」(以下協議会)を発足しました。令和 3 年度は香川大学が事務局となり、協議会を 3 回開催しました。第 5 回協議会では各県・各大学より、防災・減災に係る人材育成・防災教育についての取り組みや、防災・減災対策を対象にした企業版ふるさと納税の活用事例について情報共有、今後の活用方法が検討されました。

第 6 回協議会では 4 県 5 大学の防災・減災対策における課題についてアンケート調査を実施し、「県・市町村職員を対象とした防災教育の実施」、「防災まちづくり・復興まちづくりについて」を、今後の共通課題として議論を進めることとなりました。話題提供では、香川大学の野本特命教授より国土地理院での新たな地図記号「自然災害伝承碑」制定に伴う、市町村での登録の必要性、普及について説明がありました。

また、協議会、高知県、高知大学の主催で、「昭和南海地震から 75 年シンポジウム」をオーテピア(高知県)にて開催しました。本シンポジウムは、11 月 17 日に会場で録画撮影を行い、翌日に YouTube にて配信を行いました。今後も、四国 4 県及び国立 5 大学が相互に連携し、四国の地域強靱化に貢献していきたいと考えております。

四国官学連携防災・減災協議会(令和3年度) * 全てオンライン(Zoom)にて実施

	開催日	議 題
第5回	6月21日	(1) 四国官学連携防災・減災協議会規約の改正 (2) 4 県・5 大学における最近の施策・取り組み・話題について (3) 昭和南海地震から 7 5 年シンポジウム (案) (4) 今後の進め方について
第6回	9月14日	(1) 4 県・5 大学における最近の施策・取り組み・話題について (2) 昭和南海地震から 7 5 年シンポジウム (案) (3) 自然災害伝承碑の登録について (4) 今後の進め方について
第7回	2月28日	(1) 4 県・5 大学における最近の施策・取り組み・話題について ①県・市町村職員を対象とした防災教育の実施について (2) 今後の進め方について



協議会の様子(オンライン)

5.危機管理分野の国際学術連携推進と拠点形成

(1) 国内拠点機能の強化

国内拠点機能強化の一環として、これまでに国立研究開発法人防災科学技術研究所と連携協力協定書、国立研究開発法人海洋研究開発機構と共同研究契約書を締結しています。

さらに、防災科学技術研究所、海洋研究開発機構及び坂出市との4者協定を締結し、DONETをはじめとした海陸観測データの利活用による南海トラフ地震津波の被害軽減を推進するためのシンポジウムを開催しました。

また、四国4県5大学の連携を図るための議論を四国官学連携防災・減災協議会で継続して実施しています。

<四国5大学連携防災・減災教育研究協議会>

第26回(R3.6.28) 第27回(R4.1.14) 第28回(R4.3.22)

<四国官学連携防災・減災協議会>(旧四国4県防災危機管理担当課長と5大学連携防災・減災教育研究協議会委員との打ち合わせ会より改名)

第5回(R3.6.21) 第6回(R3.9.14) 第7回(R4.2.28)

上記に加えオンライン(ハイブリッド)方式によるシンポジウムや、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構(以下、危機管理機構)の客員教授による研究セミナー等を実施し、本危機管理機構を拠点とした、情報発信を行っています。(まちなかカフェの実施については別途記載)

開催日	タイトル	講師等	
5月14日	平原和朗地震学講座(1/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
5月25日	第1回香川地域継続検討協議会(オンライン)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
5月26日	香川地域継続検討協議会 令和3年度第1回 ワークショップ(オンライン)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
5月28日	平原和朗地震学講座(2/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
6月11日	平原和朗地震学講座(3/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
6月25日	平原和朗地震学講座(4/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
7月9日	平原和朗地震学講座(5/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
7月21日	海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム (会場・オンライン)	徳島大学 教授 馬場俊孝 他	主催
7月30日	平原和朗地震学講座(6/6回)(オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
9月11日	香川大学ジオパーク×グローバル人材育成シンポジウム(オンライン)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
10月26日	第29回香川地域継続検討協議会(オンライン) *シンポジウムと同時開催	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
10月26日	香川地域継続検討協議会設立9周年記念シンポジウム(オンライン)	香川大学 教授 梶谷 義雄 他	主催
11月8日	2021年度香川大学危機管理シンポジウム(対面・オンライン)	京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター 教授 矢守 克也 他	主催
11月17日	昭和南海地震から75年シンポジウム(対面・オンライン)	静岡県立大学長 尾池和夫 他	共催
11月21日	第7回高校生高知減災エンス塾(対面・オンライン)	香川大学 特任教授 金田義行	主催
11月22日	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー 『スーパーコンピュータを利用した地震シミュレーション』(オンライン)	海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門長 堀宗朗	主催
12月3日	香川大学 ジオパーク×地方再生シンポジウム(対面・オンライン)	ジオリブ研究所長・神戸大学名誉教授 巽 好幸他	主催
12月10日	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー 『AIを活用した自然災害モニタリング』(オンライン)	山梨大学 准教授 宮本崇	主催
12月20日	第3回香川地域継続検討協議会(ワークショップ)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
2/3,9,17	平原和朗地震学講座II(全6回1日2コマ、自治体職員向け) (オンライン配信)	香川大学客員教授、京都大学名誉教授 平原和朗	主催
3月1日	第4回香川地域継続検討協議会(ワークショップ)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催
3月1日	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー(オンライン) 『新型コロナウイルスの危機管理とリスクコミュニケーション』	日本大学危機管理学部 教授 福田 充	主催
3月8日	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー(オンライン) 『防災と福祉との連携 地域で支える災害時要援護者支援』	兵庫県立大学大学院 教授 阪本真由美	主催
3月25日	第30回香川地域継続検討協議会(オンライン)	香川大学 特任教授 長谷川修一 他	主催

(2) 国際拠点機能の強化

前年度に引き続き、国際拠点機能強化の一環として、令和3年10月27日に国際シンポジウム「第6回地震国における減災研究に関する国際シンポジウム」を台湾の中央気象局（CWB）と国立中正大学（CCU）ならびに香川大学の共催によりオンラインで開催しました。シンポジウム終了後、引き続きオンラインで CoDMiS 会議（CoDMiS : Consortium of Disaster Mitigation Science）が開催され、台湾、トルコ、インドネシア、ネパールの外国人研究員及び香川大学の研究者の計12名が出席しました。金田義行副機構長のプレゼンテーションによる世界の災害、減災科学のアウトラインが紹介されたのち、各国の防災・減災の実情や課題点、コロナ禍での活動状況、今後の CoDMiS 会議の運営方法等について活発な意見交換や提案がなされました。

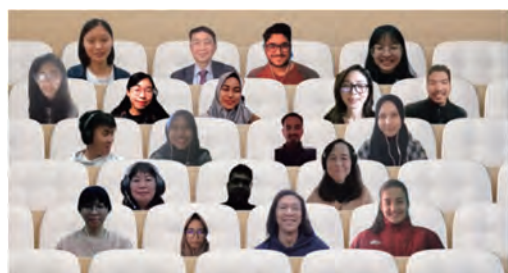
また、国際連携を強化するため3月にインドネシアのバンドン工科大学ならびにネパールのトリブバン大学のサテライトオフィスを開設しました。

本年度は金田副機構長、野々村教授、磯打特命准教授ならびに創造工学部の学生が令和3年8月にインドネシアのバンドン工科大学が Web 開催したサマースクールで講義や発表を行いました。

新型コロナウイルス感染禍のため海外から学生の招聘が出来ないことから、オンラインで令和4年1月21日から28日にかけて JST さくらサイエンスエクスチェンジプログラム（日本・アジア青少年サイエンス交流事業）を実施しました。参加者はインドネシアのバンドン工科大学、台湾の国立中正大学及びネパールのトリブバン大学の学生・教員ら合計18名で、防災・減災科学教育、香川大学学生との交流に出席しました。



国際シンポジウムのチラシ



さくらサイエンスの集合写真



バンドン工科大学サテライトオフィス開所式



トリブバン大学サテライトオフィス開所式

6.シンポジウム、セミナー等の開催

(1) 海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム

四国は言うまでもなく海に囲まれています。その海に関連した地球科学、防災減災、環境などの諸課題における研究紹介と議論を目的とする「海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム」を令和3年7月21日に香川大学において、オンラインと対面のハイブリット方式で開催しました。海洋研究開発機構、防災科学技術研究所、徳島大学、中央大学、名古屋大学、徳島文理大学などからの研究者、および香川大学からは学生を含む3名の研究者に、ご講演いただきました。広い分野の課題を対象としたため多くの方にご参加いただき、幅広い議論が活発に行われました。

海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム

令和3年 **7/21** (水) 10:30~17:00 (開場10:00)

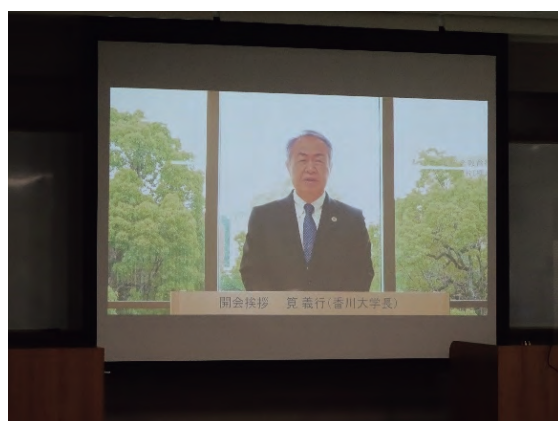
香川大学 幸町キャンパス
研究交流棟6階 第1講義室
(香川県高松市幸町1-1)

オンラインで同時配信

開会挨拶 10:30~10:40 賓 森行 (香川大学長)	セッション3 レジリエンスサイエンス分野 14:20~15:30 座長：野本 時彦 (香川大学)
セッション1 地震津波分野 10:45~11:55 座長：金田 義行 (香川大学)	・高橋 成実 氏 (防災科学技術研究所) 「リアルタイムデータを用いた防災への新活用」
・馬場 俊孝 氏 (徳島大学) 「断上に着目した確率論的津波ハザード評価」	・野田 利弘 氏 (名古屋大学) 「2016年熊本地震における阿蘇カルデラ陥没メカニズムについて ～地層不整合性、断層伝播、隆起地帯に着目した数値解析から～」
・鈴木 直 氏 (防災科学技術研究所) 「JOWMASデータを活用した津波即時予測技術」	・床越 英二 氏 (徳島文理大学) 「小規模漁村集落における安全・安心なまちづくりの探求 ～徳島県伊予市栗原を例に～」
・幸川 太郎 氏 (中央大学) 「データベースを活用した津波避難支援システムの構築」	・高瀬 結平 氏 (人と防災未来センター) 「防災社会はどこへ向かおうとしているのか？」
セッション2 海洋環境分野 13:00~14:10 座長：長谷川 修一 (香川大学)	セッション4 学生部門 15:40~16:30 座長：磯江 千穂子 (香川大学)
・東永 康寛 氏 (香川大学) 「AIを活用した水産資源生産力向上技術の開発」	・上谷 政人 氏 (徳島大学大学院 創成科学研究科) 「津波データベースを用いた避難モデルによる津波浸水予測」
・石塚 正秀 氏 (香川大学) 「河川を流れる微細マイクロプラスチックの調査と分析」	・田中 健太郎 氏 (香川大学 創造工学部) 「リスクと共存する社会のあり方に関する考察～事例調査より～」
・中西 正光 氏 (香川県) 「かがわの夏海づくりに100年先の未来へ。美しい景、豊かな海へ」	・土田 昌愛 氏 (愛媛大学大学院 理工学研究科 博士後期課程修了) 代読：亀山 昌典 氏 (徳島大学) 「土壁アレーの力学特性によって誘起されるプレート沈み込み帯ダイナミクスを模擬する二次元数値シミュレーション研究」
・田村 芳彦 氏 (海洋研究開発機構) 「西之島の2020年噴火について」	・林 伸二郎 氏 (高知大学大学院 人間自然科学研究科) 「歴史的建造物「加賀」の開発途上への普及に向けた取り組み」
閉会挨拶 16:30~17:00 司会 香川 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長	

主会：香川大学VLSI国際管理教育・研究・地域連携推進機構 共催：公益社団法人土木学会VLSI国際管理教育・研究・地域連携推進機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人防災科学技術研究所

シンポジウムのチラシ



シンポジウムの様子

(2) 香川大学 ジオパーク × グローカル人材育成シンポジウム

9月11日(土)、「香川大学 ジオパーク × グローカル人材育成シンポジウム」を開催しました。
(主催：四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、創造工学部、共催：(一社)四国クリエイト協会、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会)

当シンポジウムでは、コロナウイルスまん延防止等重点措置期間のため、一般の会場受け入れを自粛し、YouTube 視聴（ライブ配信）方式としました。

(1) 内容：

①開会挨拶：寛善行（香川大学長）

香川大学では香川県の地形や地質的遺産の評価を引き続き行いながら、ジオパークを通じて世界にネットワークを広げ、グローバルに活躍できる人材育成に努めたい。

②来賓挨拶：工代祐司様（香川県教育委員会教育長）

香川県教育委員会では第4次基本計画案で、郷土を支える人材育成を重要項目に掲げ、地域を担うグローバル人材の育成を基本方針にあげている。子どもたちの希望を都市の空に描かせるのではなく、地域の空から世界を描かせる教育に取り組まなければならない。

③基調講演1：長谷川修一（香川大学）

「今なぜジオパークの視点によるグローバル人材育成なのか？」

④基調講演2：川村教一先生（兵庫県立大学大学院）

「ジオパークでつむぐ学びのストーリー：大地の恵みと防災」

⑤ジオパークに視点によるグローバル教育に関する事例発表

コーディネーター：長谷川修一

隠岐高校魅力化コーディネーター 野邊みなも氏

高松北高等学校教諭 筒井京氏

三好市役所ジオパーク推進室ジオパーク地質専門員 殿谷梓氏

室戸ジオパーク推進協議会国際交流専門員 小笠原翼氏

⑥閉会挨拶：吉田秀典（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長）

地域を知るとはグローバルを知ることにつながる。また、地域を知ると郷土愛が生まれ、地元で活躍する人材が確保できると考えられる。香川大学はこれからも讃岐ジオパーク構想を応援していく。

(2) 参加人数：236名

(3) 配信形式：YouTube によるライブ配信（アーカイブで現在も視聴可能）

URL: <https://youtu.be/K799Knbg2Q4>

再生回数 431 回（9月14日現在）

(4) 開催状況：

YouTube の動画配信状況を示す。



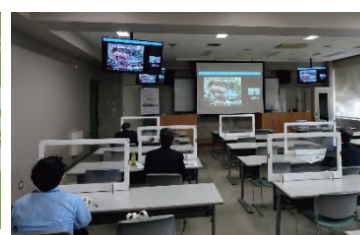
開会挨拶



来賓挨拶



閉会挨拶



大講義室（モニター用）

香川大学ジオパーク×グローバル人材育成シンポジウム



(5) アンケート結果

【講演①】

- ・教育の視点で「地域づくり」を自分ごととして捉えることの重要性を発信していただけた。
- ・教育の視点から考える「地域づくり」の重要性を考えることができた。
- ・地域ごとの地質的特徴が持続可能な地方社会を作る有効な手段となることを、わかりやすくご説明頂いた。

【講演②】

- ・教育とジオパークとの接点と取り組み方法についての内容が大いに参考になった。
- ・自然から受けるサービスによる地域の資源化、科学的な災害理解による地域の強靱化、文化地質学的な見方が分かった。

【事例発表】

- ・学校の教員として、地域とのつながり方の一つの方法がわかった。
- ・実践されている方からの報告であったので具体的な内容で説明者の熱量が伝わってきた。
- ・地域を知ること、大学と地域連携の必要性への理解が深まった。
- ・様々な地域の具体的な実践例を知ることができ、とても視野が広がった。

【ジオ教育の効果】

- ・我が故郷や地域への興味、防災への意識高揚と具体的な行動につなげること。
- ・知識と共に教養みたいなものを学べる。
- ・ジオパーク構想は、世界を見据えつつも、ゴールが自分の地域であるため、学生が、客観的に見て自分の住んでいる地域が魅力的であることに気が付けるようになるのがとてもいい。



(3) 香川地域継続検討協議会設立 9 周年記念シンポジウム

10 月 26 日(火)、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下、危機管理機構）が事務局を務める香川地域継続検討協議会の設立 9 周年を記念し、「土砂災害に備える」と題したシンポジウムを開催しました。

当シンポジウムは、完全オンライン形式で実施し、YouTube にてライブ配信を行うとともに、学内に視聴用の会場を設け、82 名の参加がありました。（会場：3 名、Web：79 名）

第 1 部では、当危機管理機構の長谷川センター長から、香川地域継続検討協議会の取り組みについて報告がありました。

第 2 部では、本学創造工学部の梶谷教授から「温暖化、土砂災害リスクと地域コミュニティ」というテーマで基調講演がありました。

その後は、当機構の金田センター長、田中隆文氏（名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授）、浜口勇氏（小豆島町立花自治会総代/小豆島町議会議員）、十河昌司氏（香川県土木部河川砂防課 課長補佐）の 4 名の方からの話題提供を受け、当危機管理機構 磯打特命准教授の進行で総合討論が行われました。“SDGs”や“専門家と地域の橋渡しの重要性”など、活発な意見交換が行われ、盛況のうちに閉会しました。

活動報告 1 令和 2～3 年度における香川地域継続検討協議会の取り組み	
活動時期	内容
令和2年3月19日(木) 14時00分～15時30分	・第26回香川地域継続検討協議会（物流・アクセス機能、統括事項） 【感染となるアクション項目：(1)～(2)】
令和2年6月24日(水)	・令和2年度 第1回香川地域継続協議会 ※新型コロナウイルスの影響により対面での実施は中止し、代替として各委員のビデオメッセージを収録したものを作成した。
令和2年11月12日(木) 10時00分～11時30分	・第27回香川地域継続検討協議会（広域・受援機能） 【感染となるアクション項目：(3)～(4)】
令和3年3月25日(木)	・第28回香川地域継続検討協議会（物流・アクセス機能） 【感染となるアクション項目：(1)～(2)】
令和3年5月25日(火) 13時00分～14時30分	・令和3年度 第1回香川地域継続協議会 ※新型コロナウイルスの影響により対面での実施は中止し、代替としてオンラインでの会議を実施した。

令和 3 年度における香川地域継続検討協議会の取り組み予定	
＜開催予定＞ 香川地域継続検討協議会（2 回）、設立 9 周年記念シンポジウム（本日）、WS（2 回）	
＜活動内容＞	
①香川 DCP 骨子、アクション項目の改定 ・アクション項目の大半が進捗している。 ・近年の法律の変遷や社会情勢の変化を踏まえる必要がある。 →WS 形式により意見を出し合う。	
②構成機関における災害時の活動内容（責務）の共有（継続） 概要：構成機関（国の機関及び民間事業者を対象）は、当該組織の概要資料を作成。 協議会において構成機関から災害時の活動内容を発表。 目的：協議会設立（平成24年）から、しばらく経過しており、改めて構成機関の活動内容について共有し、顔の見える関係づくりに資するため。	

香川地域継続検討協議会取り組み状況



土砂災害に備える

香川地域継続検討協議会
設立 9 周年記念シンポジウム

令和 3 年 10 月 26 日 (火)

13:30～16:00
オンライン開催

主催：香川地域継続検討協議会
共催：四国南海トラフ地震対策協議会
土木学会安全問題研究委員会

QRコード：オンライン参加のお申込みはこちら

開会挨拶：長谷川 修一 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先進教育研究センター長 特任教授
来賓挨拶：兵部 英人 氏 国土交通省四国地方整備局 総務課長
第1部 活動報告(13:45～14:00)
◆ 四国の地域継続力向上を目指して ～香川地域継続検討協議会の活動報告～
長谷川 修一 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先進教育研究センター長 特任教授
第2部 講演(14:00～15:50)
◆ 基調講演「温暖化、土砂災害リスクと地域コミュニティ」
梶谷 善雄 氏 香川大学創造工学部 教授
◆ トークセッション
座長：磯打 千穂子 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター長 特命准教授
パネリスト
金田 義行 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター長 特任教授
田中 隆文 氏 名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授
浜口 勇 氏 小豆島町議員/小豆島町立花自治会総代
十河 昌司 氏 香川県土木部河川砂防課 課長補佐
閉会挨拶：金田 義行 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 地域強靱化研究センター長 特任教授

土砂災害に備える

香川地域継続検討協議会
設立 9 周年記念シンポジウム



第 1 部 活動報告の様子



第 2 部 基調講演の様子

(4) 2021 年度 香川大学危機管理シンポジウム

香川大学では、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構の活動成果を地域に還元し、地域の安全・安心に寄与することを目的として、11月8日(月)にサンポートホール高松にて「防災人づくり×まちづくり ～持続可能な社会を目指して～」をテーマにシンポジウムを開催し、265名(会場：64名、Web：201名)の参加がありました。主催者及び来賓挨拶の後、金田地域強靱化研究センター長が、機構の重点実施項目に沿って活動状況を報告しました。

＜令和3年度の主なトピックス＞

- ① 昭和南海地震から75年シンポジウムの開催
- ② ジオサイト学習や親子ジオクルーズの実施
- ③ 令和3年度内閣総理大臣防災功労者表彰受賞
- ④ 香川県災害報道研究会の開催
- ⑤ 第三期中期計画(2016～2021)の実績と評価

次に基調講演では講師として京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授 矢守 克也 氏をお招きし、「防災に『も』強いまちづくり ～高知県黒潮町での10年の取り組みから～」をテーマに行いました。

矢守教授からは、これまでの黒潮町での諸活動の中から、

- ・ 地区での良い取り組みは「まねっこ防災」により水平展開
- ・ 防災倉庫に世帯ごとの防災収納BOXの設置
- ・ 「ギリギリの共助」のための玄関までの避難訓練の実施等

具体的な活動をご紹介いただきました。避難訓練はこの地域の防災学習の一環として地元の小中学生に手伝って貰い彼らの「助ける学び」を育む機会にもなっていました。有事に役立つ地区防災を展開していくためには、個々の「防災対策」だけではなく、「防災思想」を創ることの重要性について、ご講演いただきました。

最後にパネルディスカッションでは、「未来へつなぐ「防災ひとづくり×まちづくり」」をテーマに四国各地で南海トラフ地震に備えたひとづくりやまちづくりを展開されている専門家の方々から、様々な先進的な取り組みの紹介や未来に向けての提言を行いました。

○コーディネーター

長谷川修一 危機管理先端教育研究センター長 特任教授

○パネリスト

影治 信良 氏 (徳島県海部郡 美波町長)
吉田 信博 氏 (国土交通省 四国地方整備局 建政部長)
原 忠 氏 (高知大学 防災推進センター 教授)
山本 浩司 氏 (愛媛大学 防災情報研究センター 特定教授)
金井 純子 氏 (徳島大学 環境防災研究センター 助教)



挨拶：筧学長



基調講演：矢守教授



パネルディスカッション



YouTube 配信

(5) 昭和南海地震から 75 年シンポジウム

高知県オーデピアにおいて、「昭和南海地震から 75 年シンポジウム」を開催しました。(主催：四国官学連携防災・減災協議会、高知県、高知大学)

本シンポジウムは、前日会場で録画撮影を行い、11 月 18 日に YouTube にて配信を行いました。オンラインのみでの参加ですが、約 300 名の参加がありました。

午前の部では 4 県 5 大学から南海トラフ地震対策についての発表、午後の部では、尾池和夫先生の基調講演や、研究機関における南海トラフ地震への最新研究の発表、さらには高知大学、高知県、四国地方整備局による鼎談が行われました。各セッションにおいて、非常に有意義な発表、議論が行われ、盛況のうちに閉会しました。

※オンライン配信

昭和南海地震から 75年シンポジウム

次の南海トラフ巨大地震にどのように備えるか、現状と今後の課題

令和3年
11/18 (木)
10:00～16:30

【第1部】午前の部 10:00-12:00

- はじめに
 - 開催挨拶 長谷川 修一 (四国官学連携防災・減災協議会会長)
 - 主催者挨拶 瀬田 省司 (高知県知事)
 - 来賓挨拶 岡崎 誠也氏 (高知市長)
- 現在の南海トラフ巨大地震対策の取り組み
 - 鈴江 和好 (高知県危機管理政策課長)
 - 堀田 広富 (高知大学危機管理センター長)
 - 岡田 文夫 (高知大学危機管理センター長)
 - 秋元 達一 (高知大学危機管理センター長)
 - 上月 康則 (高知大学危機管理センター長)
 - 谷村 千絵 (高知大学危機管理センター長)
 - 金田 義行 (高知大学危機管理センター長)
 - パンダリ・ネトラ・プラカシム (高知大学危機管理センター長)
 - 原 忠 (高知大学危機管理センター長)
 - 進行役 長谷川 修一 (高知大学危機管理センター長)
- 全体討論

【第2部】午後の部 13:00-16:30

- 第2部挨拶
 - 来賓挨拶 丹羽 克彦氏 (高知大学学長)
- 基調講演
 - 2038年南海トラフの巨大地震—予測を読み解く—
 - 尾池 和夫氏 (防衛大学校教授、高知大学名誉教授)
 - 進行役 平原 和朗 (高知大学危機管理センター長)
- 南海トラフ地震の最新研究 (パネルディスカッション)
 - レジリエンスサイエンスの推進
 - 南海トラフ巨大地震研究の現状と課題
 - 小平 秀一氏 (海洋研究開発機構地球環境学部門 部門長)
 - 藤原 広行氏 (防災科学技術研究所)
 - 高橋 成実氏 (防災科学技術研究所)
 - 南海トラフ巨大地震研究推進本部 副本部長
 - 進行役 金田 義行 (高知大学危機管理センター長)
- 南海トラフ巨大地震に備える (鼎談)
 - レジリエンス(強靱化)社会の推進
 - 南海トラフ巨大地震への備え
 - 櫻井 克年 (高知大学学長)
 - 兵頭 英人氏 (国土交通省四国地方整備局 総務部長)
 - 浦田 敬郎 (高知大学危機管理センター長)
 - 進行役 原 忠 (高知大学危機管理センター長)
- 閉会挨拶
 - 櫻井 克年 (高知大学学長)

主催：四国官学連携防災・減災協議会 高知県 高知大学
共催：徳島県 香川県 愛媛県 徳島大学 四国教育大学 香川大学 愛媛大学
後援：四国経済産業局 四国地方整備局 高知市 公益社団法人土木学会 四国支部
協力：国立研究開発法人海洋研究開発機構 国立研究開発法人防災科学技術研究所



開会挨拶



4 県 5 大学の取組み発表



基調講演

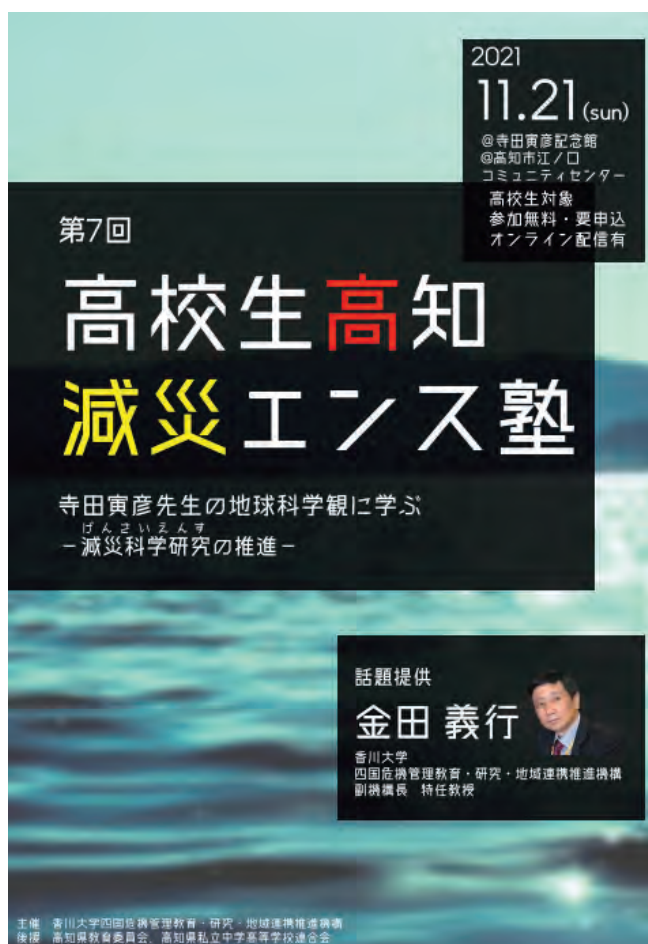


鼎談

(6) 第7回高校生高知減災エンス塾

11月21日(日)に、高校生を対象とした高知減災エンス塾を開催し30名が参加しました。寺田虎彦記念館にてZoomによるオンライン配信で実施、本学の金田特任教授より、減災科学研究の推進について、話題提供がありました。高知を中心に、四国地域における地震津波の最新の研究と課題などを研究者が紹介し、質疑応答に多くの時間をかけ議論を交わす事により、参加の高校生がそれぞれ自分のこととして災害への備えをしてもらえる場になれば、と考えています。

「天災は忘れられたる頃来る」とは、高知出身の科学者であり、学者でもある寺田寅彦先生が、自然災害を説く際によく使われた言葉とされています。歴史の中でたびたび日本を襲ってきた地震や津波。その正体を知り、次にやってくる被害を軽減しようとする研究が、懸命に進められています。地震・津波研究を減災に生かすためにはどうしたらいいか、参加者全員で考える良い機会となりました。



講義の様子 1



講義の様子 2



講義の様子 3



(7) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー ～スーパーコンピュータを利用した地震シミュレーション～

11月22日(月)、本学客員教授の堀宗朗先生(海洋研究開発機構)を講師にお招きし、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナーを開催しました。この日は「スーパーコンピュータを利用した地震シミュレーション」というテーマで、講演して頂きました。

講演には、本学学生約60名を含む97名の参加がありました。(会場：3名、Web：94名)
受講者からは、“地震断層のシミュレーションでは、一定にかかる背景となる地殻内応力場を入れて、地震発生時に断層発生後の割れ残りとして、その後の地震発生を予測することができるのか?”、“今回のセミナーで使われた各シミュレーションはどのような手順、何人ぐらいでプログラムを組まれたのか?”など、多数の質問があり、受講生にとって大変有意義な講座となりました。



香川大学
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー

令和3年11月22日(月)
13:00～14:30

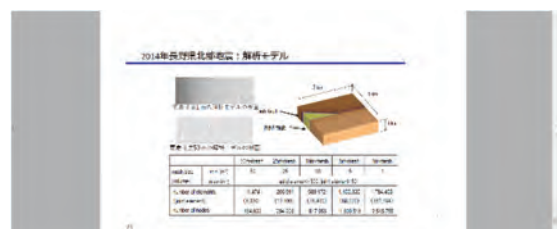
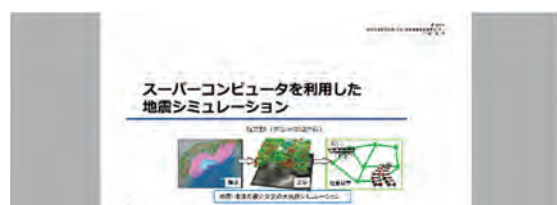
オンライン開催 (Zoom)
※パブリックビューイングできます

**スーパーコンピュータを利用した
地震シミュレーション**

国立研究開発法人海洋研究開発機構
付加価値情報創生部門長／香川大学客員教授

堀 宗朗 氏

講師プロフィール
専門は応用力学、地震工学、計算工学。
東京大学地震研究所巨大地震津波災害予測研究センター長、理化学研究所計算科学研究機構ユニットリーダー、内閣府プログラムディレクター (SIP防災)、JST創発プログラムオフィサー (建築・土木・防災分野) 等を歴任。
JACM Award for Computational Mechanics、土木学会出版文化賞、文部科学大臣表彰科学技術賞 (研究部門) 等を受賞。
著書に「東日本大震災の科学」(共著)、「Introduction to Computational Earthquake Engineering」等。



講義資料



講演の様子 (オンライン)

(8) 香川大学 ジオパーク × 地方再生シンポジウム

12月3日(金)、「香川大学 ジオパーク × 地方再生シンポジウム」を開催し、学術的価値のある地球活動の遺産とジオストーリーを取り入れた、四国の地方再生について発信しました。

(主催：四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、共催：讃岐ジオパーク構想推進準備委員会、(一社)四国クリエイティブ協会) 当シンポジウムでは、一般の会場受け入れを制限し、YouTube 同時配信を行いました。

(1) 内容：

①開会挨拶：吉田 秀典（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長）

②来賓挨拶：吉元 博文氏（国土交通省四国運輸局長）

③シンポジウムの趣旨説明：「今なぜジオツーリズムなのか？」

長谷川 修一（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長）

④基調講演：基調講演：瀬戸内ジオストーリー：食と石の文化を生んだ地球大変動

巽 好幸 先生（ジオリブ研究所長・神戸大学名誉教授）

⑤パネルディスカッション：地域のジオ資源の活用方法

コーディネーター長谷川修一（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長）

【パネリスト】

「観光目線から見た小さな四国の壮大なジオ」

半井真司 氏（一般社団法人四国ツーリズム創造機構代表理事）

「「コンテンツ」から「コンテクスト」へ ～ジオパーク、ブランディングへの視点」

岡田一雄 氏（ジオリブ研究所プロデューサー・神戸大学ブランディングアドバイザー）

「地域のジオ資源の活用方法」

原 直行 （香川大学副学長・経済学部教授）

「瀬戸内島旅活性化研究会の取組み×ジオ」

原 真志 （香川大学大学院地域マネジメント研究科長・教授）

「瀬戸内海の底質環境と水産資源の保護」

末永 慶寛 （香川大学創造工学部長・教授）

⑥閉会挨拶：藤山 究 氏(一般社団法人四国クリエイティブ協会副理事長)

(2) 参加人数：会場参加 43 名（関係者含む）

オンライン参加申込者 187 名（URL: <https://youtu.be/FlghwZrBatY>）

(3) アンケート結果

①趣旨説明：

・地域ごとの地質的特徴が持続可能な地方社会を作る有効な手段となることをわかりやすくご説明頂いた。

②基調講演：

・ジオパークが単なる自然観光を目的とするのではなく、地球の歴史とそこから生まれた人の文化や精神性等を含む大きな考えであることが理解できた。

③パネルディスカッション：

・交通、海洋、創造工学、ブランド学等の幅広い分野の先生からジオを多角的に捉える見方が理解できた。

- ・今回のパネリストと講演者が全員男性だが、多様性を取り入れるべきではないか。
 - ・もう少しディスカッションの時間があればなおよかった。
- ④その他：
- ・香川にある本物の魅力あるコンテンツを発信、アピールすることが重要。
 - ・多様なジャンルの方（例えばあまり関心のない若い女性）の意見を伺うと面白いものになるのではないか。
 - ・地域の成り立ちを地域住民に伝えると共に危機管理意識・観光・文化等へ発展させて頂きたい。
 - ・讃岐ジオパーク構想実現のためには、「観光」が突っ走っている感ではなく、気が付くとそこに繋がっているというスタイルでないといけない。



開会挨拶



趣旨説明



基調講演（巽好幸先生）



パネルディスカッション全景



パネリスト



コーディネーターとパネリスト

香川大学 ジオパーク × 地方再生シンポジウム

今、新たなインバウンド観光資源として変動帯としてのジオ・ジャパンが注目されています。学術的価値のある地球活動の遺産とジオストーリーを四国の地方再生にどのように活用するか一緒に考えませんか。

- 13:30-13:35 開会挨拶: 吉田 秀典(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構機構長)
- 13:35-13:40 来賓挨拶: 吉元 博文氏(国土交通省四国運輸局長)
- 13:40-14:10 シンポジウムの趣旨説明:「今なぜジオツーリズムなのか？」
長谷川 修一(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構機構長)
- 14:10-15:10 基調講演: 瀬戸内ジオストーリー: 食と石の文化を生んだ地球大変動
巽 好幸 先生(ジオリブ研究所長・神戸大学名誉教授)
- (休 憩)
- 15:20-16:50 パネルディスカッション: 地域のジオ資源の活用方法
コーディネーター 長谷川修一(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構機構長)
パネリスト 半井真司氏(一般社団法人四国ツーリズム創造機構代表理事)
岡田一雄氏(ジオリブ研究所プロデューサー・神戸大学ブランディングアドバイザー)
原 直行 (香川大学副学長・経済学部教授)
原 真志 (香川大学大学院地域マネジメント研究科長・教授)
末永 慶寛 (香川大学創造工学部長・教授)
- 16:50-17:00 閉会挨拶: 藤山 究氏(一般社団法人四国クリエイティブ協会副理事長)



巽好幸 先生
世界的なマダマ学者で、
美食地質学創始者。
旅版『ジオ・ジャパン』、
『ジオ・ジャパン2』で監
修・解説を務めた。著書
に『地震と地味は必ず起
くる』(新潮選書)。
『和食はなぜ美味しい -
日本列島の誇り地』(岩
波書店)ほか多数。



2021年12月3日(金)
13:30-17:00(開場13:00)
香川大学幸町キャンパス
OLIVE SQUARE 多目的ホール(先着20名)
YouTube 同時配信

【問合せ先】
香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
TEL 087-864-2544, FAX 087-864-2549
E-mail: kikikanri@kagawa-u.ac.jp
※ 申込み締切: 11月30日(火)

主催: 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
共催: 讃岐ジオパーク構想推進準備委員会、(一社)四国クリエイティブ協会
後援: 四国経済産業局、四国地方整備局、四国運輸局、香川県、香川県教育委員会、(一社)四国ツーリズム創造機構、香川県観光協会、放送大学香川学習センター、
せとうち観光専門職短期大学、土木学会四国支部、(公社)地盤工学会四国支部、(一社)日本応用地質学会中国四国支部、日本ジオパークネットワーク、
香川県観光関係協議会、香川県防災士会、かがわ自治ほう連絡協議会

(9) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー

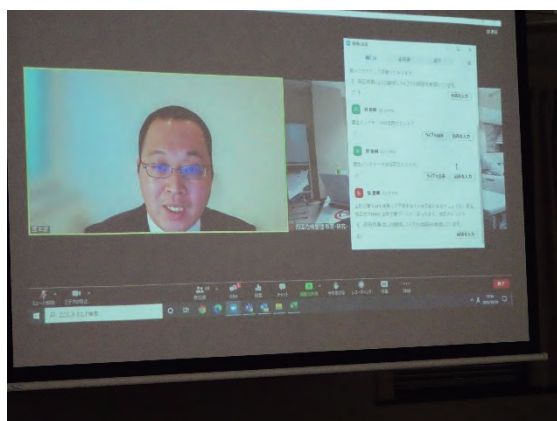
～AIを活用した自然災害モニタリング～

12月10日（金）、本学客員教授の宮本 崇先生（山梨大学）を講師にお招きし、「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー」を開催しました。この日は「AIを活用した自然災害モニタリング」というテーマで講演して頂きました。

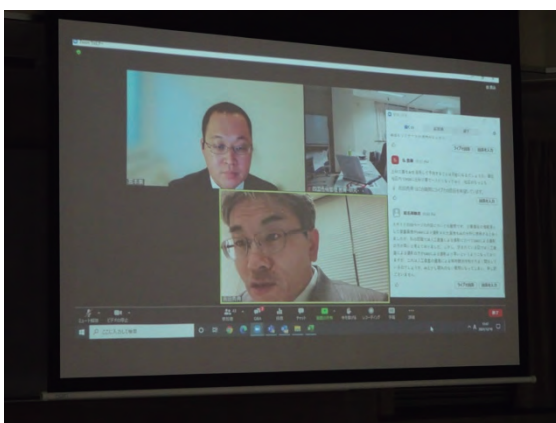
講演には、本学の学生約10名を含む62名の参加がありました。（会場：4名、Web：58名）受講者からは、“土砂災害について、AIを活用して予測することは可能になるのか”、“災害直後の情報源として、人工衛星による撮影の方がUAVによる撮影より早いというようになっているが、これは人工衛星の連携による常時観測体制が大きく関係してからののか”など、多数の質問がありました。



講義の様子 1



講義の様子 2



講義の様子 3

オンライン開催 (Zoom)
※パブリックビューイングできます

「AIを活用した 自然災害モニタリング」

2021年
12.10 (金)
16:20 - 17:50

講師：宮本 崇 氏
ドイツ人工知能研究センター 客員研究員
山梨大学 工学部土木環境工学科 准教授
香川大学客員准教授

香川大学
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー



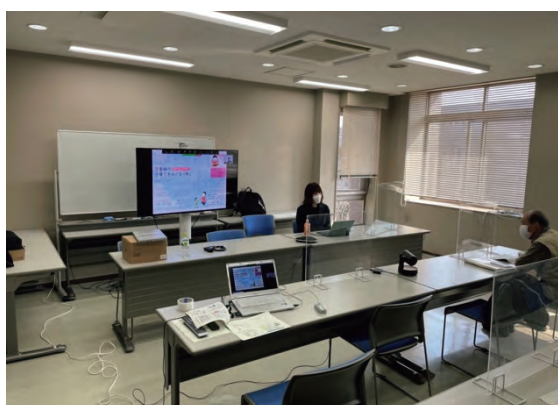


(10) 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー

～防災と福祉との連携～

3月8日（火）、本学客員教授の阪本 真由美先生（兵庫県立大学）を講師にお招きし、「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー」を開催しました。この日は「防災と福祉との連携－地域で支える災害時要援護者支援－」というテーマで、講演して頂きました。講演には、55名の参加がありました。（会場：2名、Web：53名）

受講者からは、“自治会やPTA、子供会への参加率が減るなか、「防災」をキーに、これまで関わってくれていなかった住民の方々を引っ張り出すアイデア、取り組みにはどのようなことがあるのか教えて欲しい”という質問がありました。また、“女性や子供の意見が届きにくいという説明をいただいたが、何かその改善に繋がる話等あれば教えてほしい”など、多数の質問があり、大変有意義なセミナーとなりました。講義終了後、阪本客員教授と本機構の金田特任教授との、最近、及び今後の研究活動や津波避難についての意見交換が行われました。



講義の様子 1



講義の様子 2

開催方法

ハイブリッド開催

- ▶ 会場参加
(香川大学幸町キャンパス研究交流棟3階セミナー室)
- ▶ オンライン参加
(Zoomウェビナー)

開催日時

2022. **3.8** (火)

13:30 - 15:00

講師：阪本 真由美 氏
兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授
香川大学 客員教授

お申込み方法

<https://forms.office.com/r/eehtXkaU>

3月6日(日) 〆

お申込みが困難な場合は下記にご連絡ください

お問合せ先

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
TEL 087-864-2544 FAX 087-864-2549
E-mail kikanri@kagawa-u.ac.jp

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー

防災と福祉との連携

地域で支える災害時要援護者支援



講義資料



(11) 平原和明地震学講座（前期）

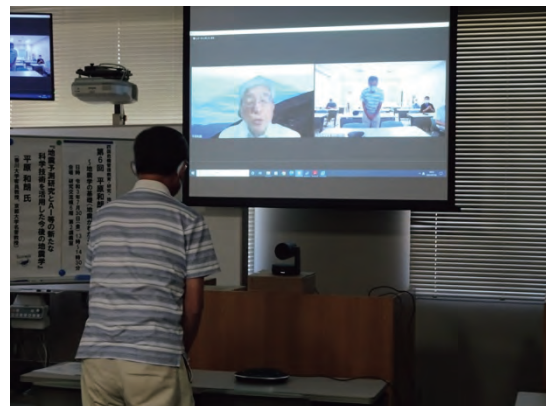
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、全6回の地震学講座を実施しました。本講座は、発生確率が高まっている南海トラフ巨大地震について、その発生予測や今後の地震学について基礎から考えることを目的としたものです。

講師には、本学客員教授にして、多くの政府委員会の委員や会長を歴任されている平原和朗先生（京都大学名誉教授）をお迎えし、地震学の用語解説や地球の内部構造、地震波の伝わり方といった基本的な内容から、活発化する内陸地震活動と、南海トラフ巨大地震との相関関係、さらにAI等の最新の科学技術を活かした今後の地震学の展望、といった多岐にわたる内容で講義をしていただきました。なお、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、平原先生には京都府の自宅から講義をオンライン配信してもらうとともに、学内に視聴用の会場を設けるハイブリッド方式で実施しました。6回の講義には延べ698名（会場：67名、Web：631名）が参加し、講義最終日には、全ての講義に参加した65名（会場：3名、Web：62名）に対し、修了証を交付しました。

一般の方を対象とした地震学講座の実施は今年度で4年目となりますが、最新の研究や政府委員会の動向などの内容が盛り込まれおり、受講生にとって非常に満足度の高い講座となっています。

◆講義スケジュール

【第1回】	5月14日（金）	地球の内部構造と大地の動き
【第2回】	5月28日（金）	地震って？
【第3回】	6月11日（金）	日本の地震活動
【第4回】	6月25日（金）	短・長周期地震動、ゆっくり地震
【第5回】	7月9日（金）	現在もその影響が継続する東北沖地震&今後発生が危惧される南海トラフ巨大地震
【第6回】	7月30日（金）	地震予測研究とAI等の新たな科学技術を活用した今後の地震学



地震学講座の様子

(12) 平原和明地震学講座（後期）

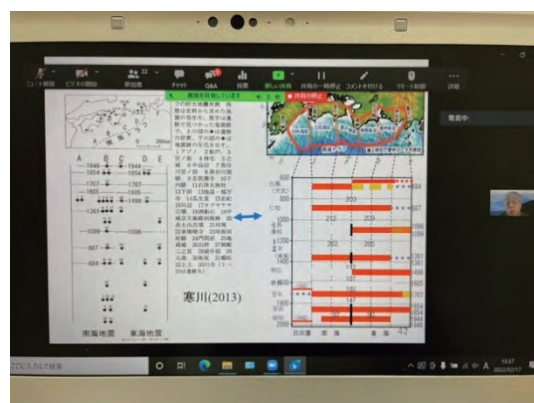
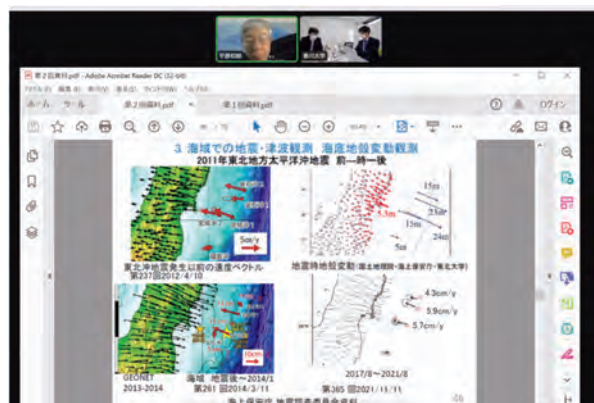
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、全6回の地震学講座を実施しました。本講座は、南海トラフ巨大地震の発生確率が今後30年以内に70～80%と高まっている中、行政職員等に地震に対する基礎知識を身につけてもらい、大規模災害に対する対策や施策に反映してもらうことを目的として、今年度は三観地域において、自治体職員等を対象に実施しました。

講師には、本学客員教授にして、多くの政府委員会の委員や会長を歴任されている平原和朗先（京都大学名誉教授）をお迎えし、地震のメカニズムや中四国地域で起こる地震、内陸の地震と海溝型の地震、南海トラフ巨大地震を巡る中央防災会議の動きといった多岐にわたる内容で、講義をしていただきました。なお、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、平原先生には京都府の自宅から講義をオンライン配信してもらい実施しました。6回の講義には延べ91名が参加し、講義最終日には、全ての講義に参加した20名に対し、修了証を交付しました。

最新の研究や政府委員会の動向などの内容が盛り込まれおり、受講生にとって非常に満足度の高い講座となりました。

◆講義スケジュール

【第1回】	2月3日（木）	地震の仕組みと現象
【第2回】	2月3日（木）	地震の調査・観測、地震調査研究の成果を防災に活かすために
【第3回】	2月3日（水）	日本の地震活動 中国・四国地域 香川県
【第4回】	2月3日（水）	四国地域の活断層の長期評価
【第5回】	2月17日（木）	南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）について
【第6回】	2月17日（木）	南海トラフ巨大地震を巡る中央防災会議の動き



オンライン配信の様子

(13) 地域防災に資する人材育成関連事業への参加者数

	開催日	タイトル	実施場所	講師等	実施形態	参加者数
1	2021年5月14日	第1回平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	160
2	2021年5月25日	第1回香川地域継続首席会議	オンライン		主催	39
3	2021年5月26日	香川地域継続検討協議会 令和3年度第1回ワークショップ	オンライン		主催	20
4	2021年5月28日	日本応用地質学会「令和3年度定例総会・講演会」講師	Zoom開催	長谷川修一	後援	91
5	2021年5月28日	第2回平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	109
6	2021年6月7日	防災授業 防災南海P	香川大学教育学部附属高松小学校 4学年	金田義行、高橋真里	主催	105
7	2021年6月9日	防災授業 防災南海P	高松市立屋島西小学校 4学年	金田義行、高橋真里	主催	67
8	2021年6月10日	防災授業 防災南海P	高知県高知市立昭和小学校 5学年	金田義行	主催	100
9	2021年6月11日	第3回平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	111
10	2021年6月20日	学校防災 教員免許更新講習		学校防災	主催	17
11	2021年6月25日	第4回 平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	104
12	2021年6月30日	防災授業 防災南海P	延岡市立緑が丘小学校 5学年	金田義行、高橋真里	主催	37
13	2021年6月30日	防災授業 防災南海P	延岡市立南中学校 1学年	金田義行、高橋真里	主催	121
14	2021年6月30日	防災授業 防災南海P	延岡市立南小学校 5年生	金田義行、高橋真里	主催	167
15	2021年7月1日	防災授業	国立大学法人高知大学(オンライン)	金田義行	主催	133
16	2021年7月6日	「四国防災・危機管理プログラム」共同実施科目 危機管理学 講師	香川大学創造工学部3304(配信)	高橋真里	主催	75
17	2021年7月8日	防災授業	学校法人順正学園九州保健福祉大学	金田義行	主催	80
18	2021年7月9日	第5回 平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	109
19	2021年7月15日	学校防災 高松北高(2 回実施)	高松北高	学校防災	主催	28
20	2021年7月21日	海洋科学の未来とレジリエンスサイエンス・シンポジウム	研究交流棟6階第1講義室		主催	233
21	2021年7月22日	「東かがわの海から見えるジオサイト」親子ジオクルーズ	東かがわ市交流プラザ (オンライン同時配信)	長谷川修一	共催	33
22	2021年7月28日	防災授業	国立大学法人宮崎大学	金田義行	主催	20
23	2021年7月30日	学校防災 中部養護学校(2 回実施)		学校防災	主催	14
24	2021年7月30日	第6回 平原和朗地震学講座	研究交流棟6階第1講義室、オンライン配信	平原和朗	主催	105
25	2021年8月20日	防災授業 防災南海P	高知県公立大学法人高知工科大学	金田義行	主催	50
26	2021年9月2日	学校防災 穴吹医療大学校(2 回実施)	穴吹医療大学	学校防災	主催	35
27	2021年9月11日	香川大学ジオパーク×防災シンポジウム	香川大学幸町キャンパスOLIVE SQUARE 多目的ホールand or研究交流棟6階	長谷川修一	主催	236
28	2021年9月14日	第 6 回四国官学連携防災・減災協議会	第 1 講義室		主催	32
29	2021年9月28日	学校防災 長尾中学校	長尾中学校 (Zoomによる遠隔配信で実施)	学校防災	主催	20
30	2021年10月25日	屋島西小学校防災教室	高松市立屋島西小学校	金田義行、野本幹浩、藤目浩二、磯打千雅子、高橋真里	主催	430
31	2021年10月26日	第 29 回香川地域継続検討協議会	研究交流棟6階第1講義室、オンライン会議		主催	27
32	2021年10 月26日	香川地域継続検討協議会設立 9 周年記念シンポジウム	* 第29回香川地域継続検討協議会と同時開催		主催	82
33	2021年10月27日	令和 3 年度国際シンポジウム(in 台湾)	CWB 台湾中央気象局	金田義行	共催	232
34	2021年10月29日	日本応用地質学会中国四国支部 「アウトリーチ活動・讃岐ジオパーク構想」	サンポート高松54会議室 (オンラインと併用)	長谷川修一	後援	101
35	2021年11月1日	防災授業	延岡市立緑が丘小学校 5学年	金田義行、高橋真里	主催	37
36	2021年11月1日	防災授業	延岡市立南中学校 1学年	金田義行、高橋真里	主催	121
37	2021年11月2日	防災授業	延岡市立南小学校 5学年	金田義行、高橋真里	主催	167
38	2021年11月8日	2021 年度香川大学危機管理シンポジウム	サンポートホール高松第 1 小ホール	藤目先生	主催	265
39	2021年11月17日	昭和南海地震から 75 年シンポジウム	オーテピア高知	金田義行	共催	294
40	2021年11月21日	第7回高校生高知減災エンス塾	寺田寅彦記念館 表座敷 高知市江ノ口コミュニティセンター	金田義行	主催	30
41	2021年11月22日	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー (JAMSTEC堀谷員教授)	オンライン(Zoom)	磯道智也、藤澤一仁	主催	97
42	2021年11月25日	学校防災 香川県教育センター	香川県教育センター	学校防災	主催	8
43	2021年12月3日	香川大学 ジオパーク×地方再生シンポジウム	香川大学幸町キャンパス OLIVE SQUARE多目的ホール	長谷川修一	主催	230
44	2021年12月10日	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー (山梨大宮本客員准教授)	オンライン(Zoom)	磯道智也、藤澤一仁	主催	62
45	2021年 12月13-14日	法学部救急隊員向けセミナー「救急活動をめぐる喫緊の法律問題」	香川大学又信記念館3階 第一会議室		共催	78
46	2021年12月18日	四国防災・危機管理プログラム「災害と健康管理・メンタルヘルス ケア」講師	香川大学医学部講義棟2階 大講義室C	高橋真里	主催	18
47	2021年12 月20日	第 3 回香川地域継続検討協議会(ワークショップ)	幸町キャンパス	磯道智也、藤澤一仁	主催	27
48	2022年1月16日	香川県防災士会 日本防災士会四国支部連絡協議会合同研修会	オンライン(Zoom)	高橋真里	共催	35
49	2022年 1月21-28日	さくらサイエンスプラン		金田義行 磯打千雅子	主催	41
50	2022年 2月3,9,17日	平原和朗地震学講座Ⅱ(全6回、自治体職員向け)	オンライン(Zoom)	磯道智也、藤澤一仁	主催	20
51	2022年2月5日	香川県防災士会 日本防災士会四国支部連絡協議会合同研修会	オンライン(Zoom)	高橋真里	共催	32
52	2022年2月28日	第7回四国官学連携防災・減災協議会	オンライン(Zoom)		主催	36
53	2022年3月8日	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構セミナー (兵庫県立大学大学院阪本真由美教授)	オンライン(Zoom)	磯道智也、藤澤一仁	主催	55
54	2022年3月16日	第10回防災・危機管理人材養成シンポジウム	You Tube配信		共催	254
55	2022年3月25日	第30回香川地域継続検討協議会		藤澤一仁	主催	32
56	訓練システム(R3実績) 6月20日～1月19日				主催	194
57	科目ごと受講者数(防災士養成講座、四国防災・危機管理プログラム、ネクストプログラム、防災危機管理コース受講科目他)				主催/共催	2,322
	計57イベント					7,778

■ Ⅲ.巻末資料 (2021 年度)

1. 研究員実績 (社会貢献活動、講演・講義、研究・解説・論文、受賞学術賞)

社会貢献活動 (2021年度) ①

(氏名五十音順)

	氏 名	内 容
1	石塚正秀	国土交通省 四国整備局 土器川の総合土砂管理に関する連絡会 オブザーバ
2	石塚正秀	国土交通省 四国整備局 土器川総合土砂管理技術会議 メンバー
3	石塚正秀	国土交通省 四国地方整備局 土器川流域学識者会議 委員
4	石塚正秀	国土交通省 四国地方整備局 水文観測品質管理検討会
5	石塚正秀	国土交通省 四国地方整備局 河川・溪流環境アドバイザー
6	石塚正秀	国土交通省 四国地方整備局 総合評価地域小委員会 委員
7	石塚正秀	国土交通省 四国地方整備局 リバーカウンセラー (土器川水系)
8	石塚正秀	香川県 産業廃棄物審議会 委員
9	石塚正秀	香川県 環境保健研究センター 研究テーマ外部評価委員会 委員
10	石塚正秀	香川県 わがかがわの川 懇談会 委員
11	石塚正秀	Aeolian Research - Editorial Board (Elsevier) Associate Editor
12	石塚正秀	土木学会 四国支部 選奨土木遺産選考委員会
13	石塚正秀	土木学会 水工学委員会環境水理部会, 部員
14	石塚正秀	土木学会 水工学委員会水文部会, オブザーバ
15	石塚正秀	土木学会 水工学委員会 環境水理部会 地球温暖化適用WG, メンバー
16	石塚正秀	土木学会 水工学委員会 論文編集小委員会 委員
17	石塚正秀	環境省 地球温暖化防止コミュニケーター
18	磯打千雅子	内閣府 地区防災計画有識者会議 委員
19	磯打千雅子	内閣府 令和3年7月からの一連の豪雨災害を踏まえた避難に関する検討会 委員
20	磯打千雅子	内閣官房 国土強靱化民間の取り組み事例集審査会 委員
21	磯打千雅子	内閣官房 国土強靱化の広報・普及啓発活動のあり方に関する検討会 委員
22	磯打千雅子	内閣官房 人・コミュニティ・地域によるレジリエンス向上のための研究会 委員
23	磯打千雅子	国土交通省 ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会 委員
24	磯打千雅子	国土交通省 四国地方整備局 四国建設業BCP等審査会 審査部会員
25	磯打千雅子	岡山県 防災アドバイザー
26	磯打千雅子	岡山県 地区防災計画等作成推進協議会 アドバイザー
27	磯打千雅子	岡山県 BCP認定制度 審査委員
28	磯打千雅子	香川県 防災会議 委員
29	磯打千雅子	香川県 建設業BCP審査会 委員
30	磯打千雅子	香川県 中小企業BCP優良取組事業所認定制度 審査委員
31	磯打千雅子	倉敷市都市計画マスタープラン策定委員会 委員
32	磯打千雅子	地区防災計画学会 理事
33	磯打千雅子	日本災害情報学会 企画委員会 委員
34	磯打千雅子	日本災害情報学会第24回学会大会実行委員
35	磯打千雅子	JICA青年研修 (防災コース) 受け入れ
36	磯打千雅子	さくらサイエンスプラン受け入れ
37	磯打千雅子	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
38	井面仁志	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
39	金田義行	高知県南海トラフ地震対策推進本部アドバイザー (2021.4~2022.3)
40	金田義行	三重県地震・津波対策検討会アドバイザー (2021.4~2022.3)
41	金田義行	徳島県国土強靱化地域計画及び徳島県南海トラフ・活断層地震対策行動計画推進委員会委員 (2020.4~2022.3)
42	金田義行	防災教育チャレンジプラン実行委員会委員 (2021.5~2022.3)
43	金田義行	徳島県復興指針検討委員会委員 (2020.9~2022.9)
44	金田義行	徳島県防災減災・復興アドバイザー (2021.4~2023.4)
45	金田義行	香川県防災・減災対策アドバイザー (2021.6~2023.6)
46	金田義行	南海トラフ海底地震津波観測網の整備に関する技術委員会委員 (N-net 技術委員会) (2020.5~2022.3)
47	金田義行	宮崎県防災会議地震専門部会 専門委員 (2021.8~2022.3)
48	金田義行	坂出市防災・危機管理アドバイザー (2019.10~2022.3)
49	金田義行	内閣府総合海洋政策推進事務局 大陸棚延長助言会議構成員 (2021.4~2022.3)
50	金田義行	香川県国土強靱化地域計画に関する有識者会議の委員 (2020.12~2021.12)
51	金田義行	国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)海域地震火山部門アドバイザー (2021.4~2022.3)
52	金田義行	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 地震調査研究推進本部専門委員 (2021.4~2022.3)
53	金田義行	(社)全国地質調査業協会連合会理事 (2015.4~2023.3)
54	金田義行	社団法人物理探査学会 代議員 (2017.4~2022.3)
55	金田義行	人と防災未来センター(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構) 客員研究員 (2021.4~2022.3)
56	金田義行	台湾中央気象局 (CWB) のアドバイザー (2021.1~2021.12)
57	金田義行	バンドン工科大学 (ITB) の講義 (オンライン) (2021年12月)

社会貢献活動（2021年度）②

（氏名五十音順）

	氏 名	内 容
58	金田義行	JICA青年研修（オンライン）でパキスタンの研修生12名受け入れ（2022年1月）
59	金田義行	JSTさくらサイエンスエクスチェンジプログラム（オンライン）でアジアの3大学より18名受け入れ（代表者）（2022年1月）
60	金田義行	台湾国立中正大学（CCU）の講義（オンライン）（2022年3月）
61	金田義行	台湾中央気象局とのオンライン会議（2022年3月）
62	金田義行	バンドン工科大学（ITB）のサテライトオフィスを設置（2022年3月）
63	金田義行	公益財団法人セコム科学技術振興財団 特定領域研究助成 領域代表者（2018.5～2022.3）
64	金田義行	香川災害報道研究会の立ち上げ（2021年4月）
65	紀伊雅敦	観音寺市 観音寺市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定委員会
66	紀伊雅敦	World Conference for Transport Research Society, Chair, SIG-F1
67	紀伊雅敦	綾川町 綾川町地域公共交通会議 委員
68	紀伊雅敦	観音寺市 スマートIC地区協議会委員
69	紀伊雅敦	高松市 高松市都市計画審議会
70	紀伊雅敦	高松市 高松市生活道路審議会
71	紀伊雅敦	高松市 高松サンプート地区都市再生検討委員会委員
72	紀伊雅敦	香川県 高松広域都市圏都市交通マスタープランフォローアップ委員会委員
73	紀伊雅敦	高松市 中心市街地活性化協議会委員
74	紀伊雅敦	丸亀市 都市計画審議会委員
75	紀伊雅敦	香川県、㈱エイト日本技術開発高松支店 琴電連立検討委員会
76	紀伊雅敦	さぬき市 地域公共交通活性化協議会委員
77	紀伊雅敦	丸亀市 地域公共交通活性化協議会委員
78	紀伊雅敦	さぬき市 さぬき市立地適正検討委員
79	紀伊雅敦	さぬき市 さぬき市都市計画審議会臨時委員
80	紀伊雅敦	国土交通省四国地方整備局 香川河川国道事務局香川県渋滞対策協議会委員
81	紀伊雅敦	高松市 都市計画道路網検討委員会委員
82	紀伊雅敦	三豊市 都市計画審議会委員
83	紀伊雅敦	東京大学生産技術研究所NEDOプロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP第2期）/自動運転/自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」検討委員会委員
84	紀伊雅敦	高松市 総合都市交通計画推進協議会委員
85	末永慶寛	「アザリ浮遊幼生の分布調査」講師 香川大学技術研究交流会（2021年10月）
86	末永慶寛	香川県水産審議会漁港・漁場整備部会、委員、着任年度平成（2014年～）
87	末永慶寛	香川県公共事業評価委員会、委員、着任年度（2014年～）
88	末永慶寛	まんのう町 満濃池周辺地域整備計画検討委員会、委員長（2016年～2021年3月）
89	末永慶寛	香川県－香川大学かがわ里海大学、講師（2016年～）
90	末永慶寛	香川県－香川県環境審議会、委員（2016年～）
91	末永慶寛	香川高等専門学校競争参加資格等審査委員会、学識経験者等委員（2018年～）
92	末永慶寛	環境省 中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会委員（2019年～2021年6月）
93	末永慶寛	放送大学 客員教授（2019年～）
94	末永慶寛	公益財団法人香川産業支援財団 技術開発等審査委員会委員（2019年～）
95	末永慶寛	瀬戸大橋橋梁照明の在り方検討委員会委員（2019年～）
96	末永慶寛	香川インテリジェントパーク交流推進協議会理事長（2019年～）
97	末永慶寛	土木学会四国支部選奨土木遺産選考委員会、委員（2013年～）
98	末永慶寛	役員、日本水産工学会評議員（2016年～）
99	末永慶寛	日本沿岸域学会、論文編集委員会、査読委員（2016年～）
100	末永慶寛	生態工学会、論文編集委員会、査読委員（2017年～）
101	末永慶寛	役員、土木学会四国支部賞選考委員会、副委員長（2018年～2019年）
102	末永慶寛	日本大学理工学部論文集、査読委員（2018年～）
103	末永慶寛	役員、土木学会四国支部賞選考委員会、委員長（2019年～）
104	末永慶寛	PACON International 2022実行委員（2020年～2022年）
105	末永慶寛	役員、PACON International Board Director（2014年～）
106	末永慶寛	役員、PACON International Journal Editorial Committee Chief（2014年～）
107	末永慶寛	OMAE Journal 査読委員（2017年～）
108	末永慶寛	攪拌ブロック礁技術検討委員会アドバイザー（2014年～）
109	末永慶寛	漁場造成技術研究会幹事長（2016年～）
110	末永慶寛	防災・減災のための国際協働技術研究会委員（2018年4月～）
111	末永慶寛	大崎上島/漁場再生技術検討委員会、委員、一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア（2019年4月から2021年3月）
112	末永慶寛	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」運営協議会、委員、高松北高等学校（2019年4月～）
113	末永慶寛	高松桜井高校評議委員会、委員（2019年4月～）

社会貢献活動（2021年度）③

（氏名五十音順）

	氏 名	内 容
114	高橋亨輔	災害状況再現・対応能力訓練システムを用いた防災訓練（14回実施、受講者・見学者194名）
115	高橋亨輔	香川地域継続検討協議会、構成員（2012年10月～）
116	高橋亨輔	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
117	高橋真里	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
118	竹之内健介	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
119	竹之内健介	福知山市、「福知山市避難のあり方推進懇話会」委員、副委員長（2022年2月～）
120	竹之内健介	近畿地方環境事務所、「気候変動適応近畿広域協議会の分科会（ゲリラ豪雨対策分科会）」副座長（2021年1月～）
121	竹之内健介	福井県大野市、防災アドバイザー（2017年4月～）
122	竹之内健介	日本自然災害学会自然災害科学編集委員、日本自然災害学会（2020年4月～）
123	竹之内健介	日本災害情報学会企画委員、日本災害情報学会（2019年11月～）
124	竹之内健介	日本災害情報学会廣井賞表彰審査委員、日本災害情報学会（2019年11月～）
125	竹之内健介	日本自然災害学会学術講演部会委員、日本自然災害学会（2018年10月～）
126	竹之内健介	三重県伊勢市汁谷川流域における地域防災活動（2021年12月）
127	竹之内健介	京都府福知山市における地域防災活動（2021年10月）
128	地元孝輔	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
129	野々村敦子	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
130	野本稔浩	一般社団法人四国クワイエット協会 公益事業委員会 委員（2021年7月～2022年3月）
131	野本稔浩	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
132	萩池昌信	香川県 災害時における医薬品供給体制検討委員会 委員
133	萩池昌信	香川県医師会 JMAT研修 委員
134	萩池昌信	香川県 ローカルDMAT研修 委員
135	萩池昌信	香川県バスケットボール協会 医科学員会 委員
136	萩池昌信	日本災害医学会 専門医委員会 委員
137	長谷川修一	令和3年度道路防災有識者（2021年4月～）
138	長谷川修一	香川県渋滞対策協議会委員
139	長谷川修一	ジオリブ研究所主任研究員（地質学分野）（2021年4月～）
140	長谷川修一	一社）四国地質調査業協会顧問（2021年5月～）
141	長谷川修一	ふさと教育推進検討委員（2021年6月～）
142	長谷川修一	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業（2021年6月～）
143	長谷川修一	第17回定時評議委員会（2021年6月～）
144	長谷川修一	坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員（2021年8月～）
145	長谷川修一	香川県自主防災活動アドバイザー（2021年9月～）
146	長谷川修一	丸亀市立城東小学校校舎等改築基本計画検討委員会検討委員（2021年9月～）
147	藤澤一仁	香川県自主防災活動アドバイザー（2016年6月～）
148	藤澤一仁	香川県教育委員会学校防災アドバイザー派遣事業（2016年6月～）
149	藤澤一仁	香川県自主防災組織広域化促進事業補助金審査会委員（2016年6月～）
150	藤澤一仁	香川県建設業BCP審査会委員（2017年8月～）
151	藤目浩二	香川県教育委員会 学校防災アドバイザー派遣事業
152	藤目浩二	屋島西小学校の防災学習プログラムへ講師として活動（令和3年10月）
153	藤目浩二	小豆島町危機管理プログラムへ講師として活動（令和3年11月）
154	藤目浩二	高松桜井高等学校家庭科クラブへの防災学習プログラムへ講師として活動（令和4年3月）
155	松村伸二	香川県「環境省委託事業 令和3年度国民参加による気候変動情報収集・分析委託業務」において収集した情報の分析結果に関する妥当性確認（農業分野）専門家ヒアリング（令和4年2月）
156	松村伸二	JICA 2021年度青年研修事業「パキスタン／防災」コース講師（令和4年1月）
157	吉田秀典	香川県広域水道企業団経営懇談会、委員、2021年度～現在
158	吉田秀典	香川県教育委員会、香川県教育施策推進協議会委員、2020年度～現在（情報部で併任兼業手続き）
159	吉田秀典	香川県教育委員会、県立高校の魅力化に関する協議会委員、2020年度～現在（情報部で兼業手続き）
160	吉田秀典	経済産業省中国四国鉱山保安協議会、四国部会長、2017年度～現在
161	吉田秀典	かがわ里海協議会、副会長、2016年度～現在（情報部で兼業手続き）
162	吉田秀典	国土交通省新技術評価委員会、委員、2010年度～現在
163	吉田秀典	国土交通省業務分会、委員、2015年度～現在
164	吉田秀典	【国内学会・委員】公益社団法人土木学会、論説委員会、委員、2021年度～現在
165	吉田秀典	【国内学会・委員】公益社団法人土木学会、岩盤力学改訂版編集小委員会、委員、2019年度～現在
166	吉田秀典	【学術団体・役員】フソウ技術開発振興基金、理事ならびに選考委員、2016年度～現在（情報部で兼業手続き）
167	吉田秀典	【国内学会・役員】日本計算数理工学会、理事、2015年度～現在
168	吉田秀典	【国内学会・委員】公益社団法人土木学会、応用力学委員会、委員、2016年度～現在
169	吉田秀典	【国内学会・役員】公益社団法人コンクリート工学会四国支部、執行委員、2014年度～現在

講演・講義（2021年度）①				(氏名五十音順)
	開催日	講師等	内 容	依頼先等
1	7月21日	石塚正秀	海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム 講師 「河川を流れる微細マイクロプラスチックの調査と分析」	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
2	10月9日	石塚正秀	かがわ里海大学2021 ステップアップ講座 講師「～里海づくりを深める～」	かがわ里海大学協議会 川と海のつながり体験講座 香川県 環境管理課
3	12月16日	石塚正秀	「マイクロプラスチックからみる環境問題」 講師	香川大学地域創生推進部 香川大学サテライトセミナー サンサン館みき
4	2月7日	石塚正秀	令和3年度情報発信検討会 講師 第二回「複合災害対応」テーマ 「内水氾濫・外水氾濫の同時発生による複合水害時の氾濫水の特徴」	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト 香川大学オーブスケア
5	3月9日	石塚正秀	令和3年度 河川技術懇談会 講師 Web会議 (Teams) 「内水・外水氾濫による複合水害時の氾濫水の特徴」	国土交通省 四国地方整備局
6	4月18日	磯打千雅子	八栗ライオンズクラブ結成 40周年記念式典出席及び記念講演 講師	八栗ライオンズクラブ
7	6月9日～ 11月25日	磯打千雅子	令和3年度小豆島町危機管理等プログラム 講師	小豆島町
8	6月19日	磯打千雅子	倉敷市茶屋町公民館 令和3年度人権教育講演会 講師	倉敷市茶屋町公民館
9	6月22日	磯打千雅子	小豆島町防災会議講演会 講師	小豆島町
10	6月26日	磯打千雅子	公益社団法人岡山県社会福祉会公開講演会 講師	公益社団法人岡山県社会福祉会
11	8月7日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
12	8月21日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
13	8月27日	磯打千雅子	岡山市立興除公民館「ゆうゆう現代セミナー」 講師	岡山市立興除公民館
14	9月4日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
15	9月11日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
16	9月18日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
17	10月2日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
18	10月6日	磯打千雅子	社会福祉施設等における事業継続計画（BCP）策定研修会【基礎編】講師	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
19	10月9日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
20	10月16日	磯打千雅子	個別避難計画作成についての説明会における講演会 講師	岡山市
21	10月25日	磯打千雅子	屋島西小学校防災教室 講師	高松市立屋島西小学校
22	11月10日	磯打千雅子	令和3年度中国地方防災研究会 第2回講演会 講師	一般社団法人 中国建設弘済会
23	11月19日	磯打千雅子	高松地方気象台 講演会 講師	高松地方気象台
24	11月27日	磯打千雅子	倉敷市茶屋町公民館「人権教育講演会」 講師	倉敷市茶屋町公民館
25	11月29日	磯打千雅子	「防災サミット2021SONAN」 講師	岡山市立操南中学校
26	12月19日	磯打千雅子	「中讃地域防災・減災・縮災ネットワークプロジェクトキックオフシンポジウム」 講師	香川河川国道事務所
27	2月5日	磯打千雅子	令和3年度広島市防災士フォローアップ研修 講師	広島市（危機管理室災害予防課）
28	2月25日	磯打千雅子	社会福祉施設等における事業継続計画（BCP）策定研修会【実践編】の講師	香川県社会福祉協議会
29	6月9日～ 11月25日	金田義行	令和3年度小豆島町危機管理等プログラム 講師	小豆島町
30	6月	金田義行	防災教育 高松市立屋島西小学校 講師	高松市立屋島西小学校
31	6月	金田義行	防災教育 高知市立昭和小学校 講師	高知市立昭和小学校
32	6月	金田義行	防災教育 延岡市立緑ヶ丘小学校 講師	延岡市立緑ヶ丘小学校
33	6月	金田義行	防災教育 延岡市立南中学校 講師	延岡市立南中学校
34	7月24日	金田義行	第9回香川県高校生生物学研究発表会の審査員	香川県教育委員会事務局
35	7月	金田義行	防災教育 延岡市立南小学校 講師	延岡市立南小学校
36	7月	金田義行	高知大学の防災授業（オンライン）講師	高知大学
37	7月	金田義行	香川大学 eラーニング科目「データサイエンスを活用した防災・危機管理」第1回 講師 （収録）	香川大学
38	7月	金田義行	九州保健福祉大学の防災授業（オンライン）講師	九州保健福祉大学
39	7月	金田義行	宮崎大学の授防災業（オンライン）講師	宮崎大学
40	7月	金田義行	海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム（オンライン）の座長	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
41	8月	金田義行	高知県公立大学法人高知工科大学の防災授業（オンライン）講師	高知工科大学
42	8月	金田義行	Social aspects of disaster risk management（オンライン）講師	バンドン工科大学(ITB)主催 International Virtual Course 2021
43	9月	金田義行	防災教育オンライン広場（防災チャレンジプラン）の司会進行	
44	10月25日	金田義行	屋島西小学校防災教室 講師	高松市立屋島西小学校
45	10月	金田義行	設立9周年記念シンポジウム（オンライン）トークセッションのパネリスト	香川地域継続検討協議会
46	10月	金田義行	6th International Conference of Earthquake Engineering and Seismology” 基調講演 "TOWARDS RESILIENT SOCIETY IN MARMARA SEISMOGENIC REGION"（オンライン）講師	Gebze Technical University主催
47	10月	金田義行	The 6th International Symposium on Disaster Mitigation Researches in Earthquake-Prone Countries - Real time monitoring systems, simulations, observations and educationsで講演及び座長	台湾中央気象局(CWB)、台湾国立中正大学(CCU)及び 香川大学共催の国際シンポジウム
48	11月8日	金田義行	2021年度香川大学危機管理シンポジウム 講師	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
49	11月10日	金田義行	減災科学シンポジウム2021 講師	徳島文理大学
50	11月	金田義行	防災教育 延岡市立南中学校 講師	延岡市立南中学校

講演・講義（2021年度）②

（氏名五十音順）

	開催日	講師等	内 容	依頼先等
51	11月	金田義行	防災教育 延岡市立緑が丘小学校 講師	延岡市立緑が丘小学校
52	11月	金田義行	防災教育 延岡市立南小学校 講師	延岡市立南小学校
53	11月	金田義行	財田地区社会福祉協議会 講演	財田地区社会福祉協議会
54	11月	金田義行	Real-time Tsunami Monitoring System in Japan（オンライン）講師	JICAトルコ世界津波の日関連のイベント
55	11月	金田義行	令和3年度職員研修（災害対応研修）講師	四国経済産業局
56	12月6～7日	金田義行	日本赤十字社香川県支部「一般職員合同研修」講師	日本赤十字社香川県支部
57	1月	金田義行	防災教育 高知市立昭和小学校 講師	高知市立昭和小学校
58	1月	金田義行	防災教育 土佐市立蓮池小学校（オンライン）講師	土佐市立蓮池小学校
59	1月	金田義行	JICA青年研修（オンライン）の講演	JICA
60	1月	金田義行	さくらサイエンスエクスチェンジプログラム（オンライン）の講義	科学技術振興機構
61	2月	金田義行	高知大学農林海洋科学部キャンパス 防災授業（オンライン）講師	高知大学
62	3月	金田義行	防災教育 高千穂町立高千穂中学校 講師	高千穂中学校
63	6月	末永慶寛	AIを用いた人工魚礁内における岩礁性魚類の資源生産力向上に関する研究（共著）	第46回土木学会海洋開発シンポジウム
64	6月	末永慶寛	サンゴ礁域における木材増殖礁の水産増殖効果（共著）	第46回土木学会海洋開発シンポジウム
65	7月21日	末永慶寛	海洋科学の未来と減災シンポジウム 講師 「AIを活用した水産資源生産力向上技術の開発」	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
66	7月	末永慶寛	複数の化学種を混入した溶液からのヒ素の選択的吸着特性に関する研究（共著）	第56回地盤工学研究発表会
67	8月	末永慶寛	ジオパークシンポジウム 講師「瀬戸内海の底質環境と水産資源の保護」	香川大学
68	9月	末永慶寛	ポーラスコンクリートの物性ならびに植物生育能力に関する研究（共著）	令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会
69	1月	末永慶寛	「流動制御機能を有する人工魚礁の開発とAIを用いた資源生産力向上技術」講師	香川県高等学校教育研究会水産部会秋季研究会 多度津高等学校
70	2月	末永慶寛	Remote sensing spatial analysis of waterlogging due to natural hazards in Bangladesh（共著）	International Conference of EJEA
71	10月25日	高橋亨輔	屋島西小学校防災教室 講師	高松市立屋島西小学校
72	6月9日	高橋真里	令和3年度小豆島町危機管理等プログラムへの講師	小豆島町
73	6月13日	高橋真里	令和3年度リモート災害疑似体験研修会への派遣	さぬき市南川自主防災会
74	7月6日	高橋真里	「四国防災・危機管理プログラム」共同実施科目 危機管理学講師	四国防災共同教育センター
75	7月14日	高橋真里	はらこども園「にこにこキッズセンター」講師	はらこども園「にこにこキッズセンター」
76	7月27日	高橋真里	穴吹学園 2021年度災害看護論特別講義講師	学校法人 穴吹学園
77	7月28日	高橋真里	香川県特別支援学校 防災教育研究会派遣参加	香川県特別支援学校
78	7月30日	高橋真里	名古屋大学減災連携研究センター E S P E R での講師	名古屋大学減災連携研究センター
79	8月9日	高橋真里	三豊市社協ふくしセミナー 災害ボランティア講座講師	三豊市社会福祉協議会
80	8月29日	高橋真里	宇多津町ボランティア連絡協議会防災研究会における講師	宇多津町ボランティア連絡協議会
81	9月18日	高橋真里	令和3年度県内被災者支援団体における災害ボランティア交流研修講師	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
82	9月25日	高橋真里	十河校区子ども会育成連絡協議会 リーダーキャンプ防災講習会	十河校区子ども会育成連絡協議会
83	10月10日	高橋真里	災害ボランティア関係講座講師	高松市市民活動センター 男女共同参画・協働推進課
84	10月25日	高橋真里	屋島西小学校防災教室講師	高松市立屋島西小学校
85	11月23日	高橋真里	丸亀市岡田地区自主防災会 防災講演会講師	丸亀市岡田地区自主防災会
86	11月29日	高橋真里	令和3年度災害ボランティアセンター運営者養成研修 講師	香川県社会福祉協議会
87	12月2日	高橋真里	令和3年度さぬき市老人クラブ活性化研修会講師	さぬき市老人クラブ連合会
88	12月5日	高橋真里	第10回市民とくる防砂フォーラム講師	高知市地域防災推進課
89	12月10日	高橋真里	静岡県富士市 災害時メンタルヘルスケア研修会 講師	静岡県富士市
90	12月18日	高橋真里	四国防災・危機管理プログラム「災害と健康管理・メンタルヘルスケア」への講師	四国防災共同教育センター
91	1月30日	高橋真里	宇多津町ボランティア連絡協議会防災研究会講師	宇多津町ボランティア連絡協議会
92	5月	竹之内健介	「避難行動について考える～これからの水害に立ち向かうために～」講師	令和3年度松阪市地区防セミナー
93	6月	竹之内健介	「避難の実態と課題～これからの水害に立ち向かうために～」講師	2021年度エキスパートB研修
94	8月1日	竹之内健介	「避難スイッチ～これからの水害に立ち向かうために～」講師	令和3年度伊勢市防災大学
95	8月	竹之内健介	気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 講師 「気候変動リスクコミュニケーション」	近畿地域 令和3年度第1回ゲリラ豪雨対策分科会特別講演
96	9月	竹之内健介	Improving Mobile Public Alert and Warning Globally 講師	U.S.-Japan Expert Workshop, online
97	10月	竹之内健介	「避難の実態と課題～これからの水害に立ち向かうために～」	2021年度エキスパートB研修
98	11月	竹之内健介	「地区防災計画とその実践～地域における気象防災の今を知る～」講師	令和3年度みえ防災人材バンクフォローアップ研修
99	1月	竹之内健介	「災害ポテンシャル情報の活用に向けて あなたはこの雨を次にどう活かしますか？」講師	福知山市避難のあり方推進シンポジウム
100	1月	竹之内健介	「気象情報と地域の雨を考える～これからの水害に立ち向かうために～」講師	三豊市サテライトセミナー

講演・講義（2021年度）③

（氏名五十音順）

	開催日	講師等	内 容	依頼先等
101	5月26日	野本稔浩	令和3年度TEC-FORCE隊員 研修 講師	四国地方整備局
102	6月9日- 11月25日	野本稔浩	令和3年度小豆島町危機管理等プログラムへの講師	小豆島町
103	6月16日	野本稔浩	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
104	10月25日	野本稔浩	令和3年度河川計画総合研修講師	四国地方整備局
105	10月25日	野本稔浩	屋島西小学校防災教室 講師	高松市立屋島西小学校
106	11月5日	野本稔浩	[2021年度河川維持管理技術者講習会]ファシリテーターの就任について	一般財団法人 河川技術者教育振興機構
107	1月25日	野本稔浩	社会福祉施設等における災害対応力向上研修会の講師	香川県社会福祉協議会
108	3月2日	野本稔浩	令和3年度職員研修（災害対応研修）講師	四国経済産業局
109	10月	萩池昌信	香川県看護協会 講義 災害時対応	香川県看護協会
110	10月	萩池昌信	香川県看護協会 講義 医療安全	香川県看護協会
111	11月3日	萩池昌信	令和3年度災害時医療研修事業「第6回」MAT香川 隊員養成研修会」講師	香川県医師会
112	11月	萩池昌信	令和3年度小豆島町危機管理等プログラムへの講師	小豆島町
113	11月	萩池昌信	香川県医師会JMAT研修 講師 「災害急性期の対応」	香川県医師会
114	1月22-23	萩池昌信	令和3年度香川DMAT研修会 講師	香川県立中央病院
115	1月	萩池昌信	高松市医師会 災害医療班 研修会（講演）「医療機関のBCP」	高松市医師会
116	1月	萩池昌信	JICA講義 （危機管理機構 対象： パキスタン）講義 Prevention of / Response to Disaster at hospitals	JICA
117	1月	萩池昌信	JICA講義 （医学部 対象： インド） 講義 Disaster prevention and Response in hospitals , 講義 BCP of medical institutions	JICA
118	2月	萩池昌信	「災害時の医療体制と行政との連携」講師	第39回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
119	4月5日	長谷川修一	建設マネジメント四国「出前講座」講師	(株)建設マネジメント四国
120	5月17日	長谷川修一	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
121	5月28日	長谷川修一	日本応用地質学会「令和3年度定例総会・講演会」講師	日本応用地質学会中国四国支部
122	6月9日	長谷川修一	令和3年度小豆島町危機管理等プログラムへの講師	小豆島町
123	6月16日	長谷川修一	令和3年度かがわ長寿大学2年生の講師	公益財団法人かがわ健康福祉機構
124	7月22日	長谷川修一	「東かがわの海から見えるジオサイト」親子ジオクルーズ 講師	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会
125	9月23日	長谷川修一	土庄町立土庄中学校 出前講義の講師	土庄町立土庄中学校
126	9月29日	長谷川修一	令和3年度職員研修（災害対応研修）講師	四国経済産業局
127	10月7日	長谷川修一	愛媛社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座講師	愛媛大学防災情報研究センター
128	10月24日	長谷川修一	高松市「防災士ネットワーク会員研修会」講師	高松市
129	10月29日	長谷川修一	日本応用地質学会「令和3年度支部研究発表会、特別講演会」講師	日本応用地質学会中国四国支部
130	11月19日	長谷川修一	令和3年度四国地方高圧ガス保安大会 講師	四国地方高圧ガス保安大会実行委員長
131	12月27日	長谷川修一	香川県教育センター「令和3年度研修講座」講師	香川県教育センター
132	1月8日	長谷川修一	三木町水上校区自主防災組織連絡協議会 減災講演会講師	三木町水上校区自主防災組織連絡協議会
133	1月20日	長谷川修一	令和3年度かがわ長寿大学2年生の講師	公益財団法人かがわ健康福祉機構
134	1月31日	長谷川修一	高松市議会「讃岐ジオパーク構想」に関する勉強会講師	高松市議会 自由民主党議員会
135	2月9日	長谷川修一	香川県立高松西高等学校「課題探求ポスター発表会」講師	香川県立高松西高等学校
136	4月19日	藤澤一仁	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
137	6月9日- 11月25日	藤澤一仁	令和3年度小豆島町危機管理等プログラムへの講師	小豆島町
138	6月4日	藤澤一仁	安全運転管理者講習の講師（三豊市）	香川県警察本部
139	6月22日	藤澤一仁	安全運転管理者講習の講師（さぬき市）	香川県警察本部
140	8月19日	藤澤一仁	安全運転管理者講習の講師（穴吹学園）	香川県警察本部
141	8月	藤澤一仁	安全運転管理者講習講師（高松市）	高松市
142	11月	藤澤一仁	災害対策本部運営訓練（小豆島町危機管理等研修プログラム）	小豆島町
143	12月2日	藤澤一仁	安全運転管理者講習の講師（さぬき市）	香川県警察本部
144	1月20日	藤澤一仁	丸亀城西高校「防災講演会」講師	丸亀城西高校
145	10月25日	藤目浩二	屋島西小学校防災教室 講師	高松市立屋島西小学校
146	11月	藤目浩二	災害対策本部運営訓練（小豆島町危機管理等研修プログラム）	小豆島町
147	8月	松村伸二	高松市防災啓発展『ぼうさいまちカフェ』講師	高松市
148	1月	松村伸二	2021年度青年研修事業「パキスタン／防災」コース講師	JICA
149	2月	松村伸二	「環境省委託事業 令和3年度国民参加による気候変動情報収集・分析委託業務」において収集した情報の分析結果に関する妥当性確認（農業分野）専門家ヒアリング	香川県

研究、解説、論文（2021年度）①

（氏名五十音順）

	日付	氏名	内容	依頼先等
1	5月29日	加藤聖、角野拓真、宇井達郎、松居俊典、岡崎慎一郎、梶谷義雄、石塚正秀	河川の水位履歴が橋脚周りの局所洗掘に及ぼす影響に関する検討、令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会講演概要集	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会、オンライン開催（愛媛大学担当）
2	5月29日	西川遼、石塚正秀	空間分解能の異なる標高データを用いた財田川における河川流出シミュレーションの基礎的検討	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会講演概要集、II-17、Jscet7-068-2021、オンライン開催（愛媛大学担当）
3	5月29日-6月11日	北村友哉、石塚正秀、藤澤一仁	内水・外水の複合水害による高松市街地への可能浸水深の推定、令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会講演概要集、wII-8、Jscet7-125-2021	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会、オンライン開催（愛媛大学担当）
4	5月30日-6月6日	Wu, J., Y. Kurosaki, G. Batdelger, B. Batjargal, M. Ishizuka, T. Sekiyama, J. Liu.	Estimation of non-photosynthetic vegetation amount in the northern Gobi Desert using MODIS satellite data	JpGU(Japan Geoscience Union) Meeting, Oral presentation, 2021.5.30-6.6 by Dr. Wu.
5	8月16-27日	Watanabe Y, Ishizuka M.	Characteristics of Inundation Water During Compound Water Disasters Due to Overlapping Flood of River and Inland Waters, Summer school, AN ONLINE CONFERENCE FOR THE YOUTH, Kagawa Student Presentation Session, Land Administration for disaster-prone and affected areas	International Virtual Course 2021, Geodesy and Geomatics Engineering, Faculty of Earth Sciences and Technology, Institut Teknologi Bandung, online, 16-27th August 2021
6	8月	津田守正・石塚正秀	洪水時のダム運用計画に対する河川流量の逆計算手法の適用	令和3年度四国地方整備局技術・業務研究発表会、I-61-I-64
7	9月6-9	Kanamitsu, A., Ishizuka, M., Shinobu Uemura, Ayami Nishioka, Kohel Yoshihara, Sota Miyake, Kazuhiko Ichimi, Hitomi Yamaguchi, Yoshihiro Suenaga, Kuni-nao Tada	Characteristics of Microplastics in Rivers and Estuary in Takamatsu	Kagawa in May-October, 2019Book of Abstracts, P3.22, Elsevier, ECSA 58 - EMECS 13 Joint Conference, Estuaries and coastal seas in the Anthropocene, Structure, functions, services and management, 6-9 September 2021, Online Live and On-demand. Poster presented by Miyake (8th day)
8	9月7-10日	Murayama, S., Ishizuka, M., Terao T.	Yura River in Japan under the influences of the Asian monsoon: digitalization of historic-topographic narratives and water flow simulations	The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2021) Session 6.1 Digital Dimensions in Environmental History - new Perspectives, Kyoto University, Japan (online)
9	9月8-10日	北村友哉、石塚正秀、渡辺悠斗、藤澤一仁	内水氾濫・外水氾濫による複合水害時の可能浸水深の推定 -高松市街地における検討-	土木学会第76回年次学術講演会講演概要集、II-76、2021.令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会、オンライン開催
10	10月22日	Yatsuzuka, M., Ishizuka, M., Murayama S., Terao T	Location of wells and groundwater distribution in Teshima Island, Japan. Environmental humanities approach and hydrological simulation	The European Japan Experts Association (EJEA)Takamatsu Kagawa University (online), (poster presented by Yatsuzuka)
11	12月14日	Buyantogtokh, B., Kurosaki, Y., Tsunekawa, A., Tsubo, M., Gantsetseg, B., Davaadorj, A., Ishizuka, M., Sekiyama, T., Tanaka, T., Maki, T	Effect of stones on the sand saltation threshold during natural sand and dust storms in a stony desert in Tsogt-Ovoo in the Gobi Desert, Mongolia	EP15B - Aeolian Processes on Earth and Other Planetary Bodies III Poster, EP15B-1324, the AGU Fall meeting 2021.(poster presentation by Buyantogtokh)
12	12月16日	Wu, J., Y. Kurosaki, G. Batdelger, B. Batjargal, M. Ishizuka, T. Sekiyama, J. Liu	Improved estimations of dry vegetation cover and mass using MODIS data at a dust hotspot in the Gobi Desert. AGU, A35E - Dust in a Changing Climate	From Small - Scale Insights to Large - Scale Understanding III Poster, A35E-1675 the AGU Fall meeting 2021 (Poster presentation, 2021.12.16 by Dr. Wu).
13	12月27日	西端涼介・中国正寿・山口一岩・一見和彦・石塚正秀・末永慶寛・多田邦尚	播磨灘における表層海中のマイクロプラスチックの分布と組成 第7回海洋環境研究集会	神戸大学深江キャンパス 総合学術交流棟1F 梅木Yホール
14	令和3年	北村友哉・石塚正秀・渡辺悠斗・藤澤一仁	内水・外水の重畳氾濫による複合水害時の氾濫水の特徴	土木学会論文集B1(水工学)、Vo.77, No.2、I_1471-I_1476、2021.
15	令和3年	西川遼・石塚正秀	空間分解能の異なる標高データを用いた中小河川における流出シミュレーション	土木学会論文集B1(水工学)、Vo.77, No.2、I_283-I_288、2021.
16	令和3年	加藤聖・角野拓真・岡崎慎一郎・松居俊典・梶谷義雄・石塚正秀・吉田秀典	河川の水位履歴が円形橋脚の局所洗掘に与える影響	土木学会論文集B1(水工学)、Vo.77, No.2、I_385-I_390、2021.
17	令和3年	T.Kadono, S. Kato, S. Okazaki, T. Matsui, Y. Kajitani, M. Ishizuka and H. Yoshida	Effects of Dynamical Change in Water Level on Local Scouring around Bridge Piers Based on In-Situ Experiments	Water, 13(21), 3015; https://doi.org/10.3390/w13213015 , 2021.
18	令和3年	Kajino, M., Watanabe, A., Ishizuka, M., Kita, K., Zaizen, Y., Kinase, T., Hirai, R., Konnai, K., Saya, A., Iwaoka, K., Shiroma, Y., Hasegawa, H., Akata, N., Hosoda, M., Tokonami, S., and Igarashi, Y	Reassessment of the radiocesium resuspension flux from contaminated ground surfaces in East Japan	Atmos. Chem. Phys. Discuss., https://doi.org/10.5194/acp-2021-687 , pp.1-36, 2021
19	令和3年	Buyantogtokh B., Kurosaki Y., Tsunekawa, A., Tsubo, M., Gantsetseg, B., Davaadorj A., Ishizuka M., Sekiyama T., Tanaka T., Maki T.	Effect of stones on the sand saltation threshold during natural sand and dust storms in a stony desert in Tsogt-Ovoo in the Gobi Desert	Mongolia. J. Arid Land, 13, 6537673, https://doi.org/10.1007/s40333-021-0072-7 , 2021.
20	令和3年	Wu, J., Kurosaki Y., Gantsetseg B., Ishizuka M., Sekiyama T. T., Buyantogtokh B., Liu J.	Estimation of dry vegetation cover and mass from MODIS data Verification by roughness length and sand saltation threshold	International Journal of Applied Earth Observation and Geoinformation, Vol. 102, pp.1-11, https://doi.org/10.1016/j.jag.2021.102417 , 2021
21	令和3年	Kong, K., Nandintsetseg B., Shinoda M., Ishizuka M., Kurosaki Y., Bat-Oyun T., Gantsetseg B.	Seasonal variations in threshold wind speed for saltation depending on soil temperature and vegetation	A case study in the Gobi Desert, Aeolian Research Vol. 52, pp.1-11, https://doi.org/10.1016/j.aeolia.2021.100716 , 2021. Abstracts of AOGS2021 virtual (Asia Oceania Geosciences Society) The Asia Oceania Geosciences Society 18th Annual Meeting (AOGS2021 virtual), A528-A032, 01 - 06 August 2021. (poster presented on 3th by Nandintsetseg B.)
22	令和3年	Nishikawa R., Ishizuka M	River Runoff Simulation Using DEM Data With Different Spatial Resolutions In A Small-sized River (the Saita-gawa River) in Japan	International Platform for Dryland Research and Education Research Project Workshop, oral presentation, 7 Jan 2022.
23	1月7日	Buyantogtokh, B., Kurosaki, Y., Tsunekawa, A., Tsubo, M., Ishizuka, M., Gantsetseg, B., Batjargal, G	Estimating the sand saltation thresholds from Sentinel-1 SAR data in the Gobi Desert, Mongolia.	Journal of Kagawa University International Office, Vol. 14, pp.341-349, (ISSN 1884-8745), 2022.
24	令和4年	Yatsuzuka, M., Ishizuka, M., Murayama, S., Terao, T.	Study on Dug Well Distribution and Water Balance in Teshima Island: Environmental Humanities and Hydrological Perspectives	Atmos. Chem. Phys., 22, 7837803, https://doi.org/10.5194/acp-22-783-2022 ,
25	令和4年	Kajino, M., Watanabe, A., Ishizuka, M., Kita, K., Zaizen, Y., Kinase, T., Hirai, R., Konnai, K., Saya, A., Iwaoka, K., Shiroma, Y., Hasegawa, H., Akata, N., Hosoda, M., Tokonami, S., and Igarashi, Y.	Reassessment of the radiocesium resuspension flux from contaminated ground surfaces in Eastern Japan	Lessons Learned from Japanese Experience, Appl. Sci. 2022.12.1271
26	12月	Rizqi Abdulharis, Alfitra Puspa Handayani, Chikako Isouchi and Irwan Meilano	Developing Community Disaster Resilience in the Lembang Fault Area, Indonesia	MINTOvol 49, 一般財団法人 民間都市開発推進機構
27	令和3年	磯打千雅子	極端な社会環境の変化に柔軟に適応するためには？-グラデーションの視点からまちづくりを考える-	地区防災計画学会
28	令和3年	田中隆文・石垣勝之・磯打千雅子ほか	土砂災害に備える観点からの地区防災計画事例の比較研究	地区防災計画学会研究発表
29	3月	磯打千雅子	地区防災計画における文書化の意義に関する考察	2022年3月地区防災計画学会研究発表
30	3月	樋口正敏・磯打千雅子	防災と福祉が一体となった自主防災組織の構築とその展望	日本災害情報学会第24回研究発表
31	3月	田中健太郎・磯打千雅子	災害伝承が与える防災行動への影響に関する研究～小豆島町を対象として～	日本災害情報学会第24回研究発表
32	3月	三谷純平・磯打千雅子	災害地名が人々の居住へ与える影響の分析	日本災害情報学会第24回研究発表
33	3月	中村公貴・磯打千雅子	災害対策による副次的効果に関する研究	日本災害情報学会第24回研究発表
34	3月	長尾陽飛・磯打千雅子	四国地方住民の火山灰被害に対する危機意識に関する研究～不作為のリスク行動に関するモデルの検討～	日本災害情報学会第24回研究発表
35	3月	磯打千雅子	<共著> 地区防災計画学の基礎と実践	弘文堂
36	5月	金田義行	『地球と生きる：～災害と向き合う知恵～』（電子書籍版）	22世紀アート<単著>
37	5月	金田義行	〈年間特集〉「南海トラフ巨大地震プロジェクト成果」	自然災害科学 Vol.40 No.1 2021、査読有り<単著>
38	8月	金田義行	Seismic velocity structure along the North Anatolian Fault beneath the Central Marmara Sea and its implication for seismogenesis	Geophysical Journal International (GJI) Oxford University Press 査読有り<共著>
39	10月	金田義行	Unmanned Aerial Vehicle (UAV) and Photogrammetric technic for 3D Tsunami Safety Modeling in Cilacap, Indonesia	Applied Sciences (Open Access Journal by MDPI) Special Issue "Advanced Measures for Earthquake and Tsunami Disaster Mitigation" 査読有り<共著>
40	10月	金田義行	Eigenstate Transition of Multi-channel Time-series Data around Earthquakes	Applied Sciences (Open Access Journal by MDPI) Special Issue "Advanced Measures for Earthquake and Tsunami Disaster Mitigation" 査読有り<共著>

研究、解説、論文（2021年度）②

（氏名五十音順）

	日付	氏名	内容	依頼先等
41	12月	金田 義行	Trans-dimensional imaging of the random inhomogeneity structure in the southern Ryukyu arc, Japan	Geophysical Journal International (GJI) Oxford University Press 査読有<共著>
42	1月	金田 義行	『自然災害科学: 防災の百科事典』第6章 津波災害 「地震・津波観測監視システム」	日本自然災害学会設立40周年記念出版 丸善出版㈱ <共著>
43	1月	金田 義行	『人と海洋の共生をめざして 150人のオピニオン?』「海学の動機-海を学ぶ、海から学ぶ」Ocean Newsletter No. 451~No.500	(公財)笹川平和財団 海洋政策研究所
44	2月	金田 義行	三木町水上校区自主防災だより Vol.4 With You「シリーズ 南海トラフ巨大地震とは その1」	三木町水上校区自主防災組織連絡協議会
45	6月	Taiki Miura, Tetsuya Tamaki, Masanobu Kii, Yoshio Kajitani	Efficiency by sectors in areas considering CO2 emissions: The case of Japan	Economic Analysis and Policy 70 514-528 2021年6月 査読有
46	6月	Witsarut Achariyaviriya, Yoshitsugu Hayashi, Hiroyuki Takeshita, Masanobu Kii, Varameth Vichiensan, Thanaruk Theeramunkong	Can Space?Time Shifting of Activities and Travels Mitigate Hyper-Congestion in an Emerging Megacity, Bangkok? Effects on Quality of Life and CO2 Emission	Sustainability 13(12) 6547-6547 2021年6月8日 査読有
47	6月	Masanobu Kii, Yuki Goda, Varameth Vichiensan, Hiroyuki Miyazaki, Rolf Moeckel	Assessment of Spatiotemporal Peak Shift of Intra-Urban Transportation Taking a Case in Bangkok, Thailand	Sustainability 13(12) 6777-6777 2021年6月15日 査読有
48	10月	Masanobu Kii, Yuki Goda, Tetsuya Tamaki, Tatsuya Suzuki	Evaluating Public Transit Reforms for Shrinking and Aging Populations: The Case of Takamatsu, Japan	Future Transportation 1(3) 486-504 2021年10月2日 査読有
49	11月	Masanobu Kii, Varameth Vichiensan, Carlos Llorca, Ana Moreno, Rolf Moeckel, Yoshitsugu Hayashi	Impact of Decentralization and Rail Network Extension on Future Traffic in the Bangkok Metropolitan Region	Sustainability 13(23) 13196-13196 2021年11月29日 査読有
50	12月	Masanobu Kii	Projecting future populations of urban agglomerations around the world and through the 21st century	npj Urban Sustainability 1(1) 2021年12月 査読有
51	令和3年	龍満直起, 宮川昌志, 阿保勝之, 末永慶寛, 多田邦尚, 本城凡夫	香川方式リスカートによる養殖漁場への新施肥技術	日本水産学会誌, 87(1), pp.23-30, 2021, 査読有
52	令和3年	山本貴史, 玉置哲也, 岡崎慎一郎, 岡崎百合子, 吉田秀典, 末永慶寛	AIを用いた人工魚礁内における岩礁性魚類の資源生産力向上に関する研究	土木学会論文集B3(海洋開発), 77(2), pp.1_709 - 1_714, 2021, 査読有
53	令和3年	柴田早苗, 幸田隆史, 高山博史, 仲本豊, 伊藤靖, 末永慶寛	サンゴ礁域における木材増殖礁の水産増殖効果	土木学会論文集B3(海洋開発), 77(2), pp.1_571 - 1_576, 2021, 査読有
54	令和3年	Takuji GOTO, Yoshio KAJITANI, Minoru YAMANAKA and Yoshihiro SUENAGA	Business Continuity Plan for the Production and Distribution of Marine Products Obtained from Fishery Areas	PACON International, Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, Vol.14, No.1, pp.44-53, 2021, 査読有
55	令和3年	Akito NAKAMURA, Takafumi YAMAMOTO, Tomoki IKOMA, Koichi MASUDA, Hitomi NAKANISHI, Satoru TAKAHASHI and Yoshihiro SUENAGA	Study on the Wave Energy Absorption Function of Artificial Reefs in the Irregular Waves	PACON International, Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, Vol.14, No.1, pp.21-31, 2021, 査読有
56	令和3年	Yusuke BESSHO, Hitomi NAKANISHI, Tetsuya TAMAKI, Satoru TAKAHASHI, Tsuneo HONJO and Yoshihiro SUENAGA	Study on Symbiotic System of Sea Urchin (Strongylocentrotus nudus) and Kombu (Saccharina japonica) in the Great East Japan Earthquake Area	PACON International, Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, Vol.14, No.1, pp.11-20, 2021, 査読有
57	令和3年	Yoshihiro YOKOYAMA, Alia Sharina Binti SALAHUDIN, Tsuneo HONJO, Satoru TAKAHASHI and Yoshihiro SUENAGA	Study on the Flow Field Control Technology of Semi-Enclosed Bay	PACON International, Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, Vol.14, No.1, pp.32-43, 2021, 査読有
58	令和3年	Nazmul Huda, Toru Terao, Atsuko Nonomura and Yoshihiro Suenaga	Time-Series Remote Sensing Study to Detect Surface Water Seasonality and Local Water Management at Upper Reaches of Southwestern Bengal Delta from 1972 to 2020	Journal of Sustainability 2021, 13, 9798. 28pages. 2021. 査読有
59	令和3年	Ayane Yanaka, Yuri Takeshita, Keiichi Shibata, Yoshihiro Suenaga and Hidenori Yoshida	Adsorption Properties of Materials Adsorbing Selectively Arsenic from Aqueous Solutions Containing Multiple Chemical Species	Proceedings of the 11th International Conference - GEOMATE 2021 Geotechnique, Construction Materials and Environment, pp.372-377, November 2021
60	令和3年	Yui Oyake, Yoshihiro Suenaga, and Hidenori Yoshida Kensuke Yamaya	Study on Physical Properties and Grass Growth Capacity of Porous Concrete	7th International Conference - SEE 2021 (Structure, Engineering & Environment), pp.110-115, November 2021
61	令和4年	Nazmul Huda, Toru Terao, Atsuko Nonomura and Yoshihiro Suenaga	Remote sensing spatial analysis of waterlogging due to natural hazards in Bangladesh	Proceedings of IEJA, 6pages (in press), 2022, 査読有
62	令和4年	Kensuke Yamaya, Yui Oyake, Yoshihiro Suenaga, and Hidenori Yoshida,	Study on Physical Properties and Grass Growth Capacity of Porous Concrete	International Journal of GEOMATE, Vol.22, Issue 91, pp.8-13, March, 2022, 査読有
63	令和4年	Ayane Yanaka, Yuri Takeshita, Keiichi Shibata, Yoshihiro Suenaga and Hidenori Yoshida	Adsorption Properties of Materials Adsorbing Selectively Arsenic from Aqueous Solutions Containing Multiple Chemical Species	International Journal of GEOMATE, Vol. 22, Issue 90, pp. 79-84, February 2022, 査読有
64	令和3年	友時 照俊、井面 仁志、高橋 亨輔、白木 渡	FRAM(機能共鳴解析手法)による建設業における墜落災害の分析(共著)	土木学会論文集F6(安全問題)、77(2)、1_12-1_21、2021、査読有
65	令和3年	岩原 廣彦、白木 渡、井面 仁志、高橋 亨輔	南海トラフ地震時に孤立する瀬戸内海島嶼部における島民相互の支え合いコミュニティの形成に向けた取り組み事例(共著)	土木学会論文集F6(安全問題)、77(2)、1_99-1_107、2021、査読有
66	令和3年	高橋 亨輔	グラフ理論を用いた道路ネットワークの評価と物資拠点に関する分析(共同発表)	日本材料学会第70期学術講演会、USB(2頁)、2021、査読無
67	令和3年	山本 凌平、井面 仁志、高橋 亨輔	複合現実デバイスのオブジェクト共有機能を活用した避難訓練システムの開発(共同発表)	日本材料学会第70期学術講演会、USB(2頁)、2021、査読無
68	令和3年	坂根 早磨、高橋 亨輔、井面 仁志	大規模被災を考慮した遺伝的アルゴリズムによる道路啓開計画策定手法の提案(共同発表)	日本材料学会第70期学術講演会、USB(2頁)、2021、査読無
69	令和3年	高橋 亨輔、井面 仁志	機能共鳴解析手法を用いた地震発生時の教職員の初動対応に関する事例分析(共同発表)	日本材料学会四国支部 第18回学術講演会 講演概要集、12-13、2021、査読無
70	令和3年	友時 照俊、白木 渡、井面 仁志、高橋 亨輔	建設業の労働災害分析にFRAM(機能共鳴解析手法)を用いる試みについて(共同発表)	安全工学シンポジウム2021、pp.88-91、2021、査読無
71	令和3年	高橋 亨輔、井面 仁志、白木 渡、小笠原 誠、小倉 晃一	レジリエントな地域復興を目指した大規模地震災害時における地域啓開シミュレーション(共同発表)	安全工学シンポジウム2021、92-95、2021、査読無
72	令和3年	伊丹 秀周、高橋 亨輔、井面 仁志	防災・危機管理に活用されるデータサイエンスの教材開発(共同発表)	令和3年度電気・電子・情報関係学会 四国支部連合大会 講演論文集、214、2021、査読無
73	令和3年	松田 知樹、高橋 亨輔、井面 仁志	複合現実を活用した災害状況再現システムの開発(共同発表)	令和3年度電気・電子・情報関係学会 四国支部連合大会 講演論文集、215、2021、査読無
74	令和3年	高橋 亨輔、井面 仁志、友時 照俊	機能共鳴解析手法(FRAM)のためのデザインパターンの検討(共同発表)	第33回信頼性シンポジウム、78-79、2021、査読無
75	令和3年	山本 凌平、井面 仁志、高橋 亨輔	複合現実デバイスによる空間共有機能を活用した協調型避難訓練システムの開発(共同発表)	第33回信頼性シンポジウム、80-81、2021、査読無
76	令和3年	井面 仁志、高橋 亨輔	災害レジリエンスを考慮した被災時道路啓開計画の検討(特集「インフラレジリエンスの取り組みと将来に向けて」)(共著)	感性工学、19(3)、123-128、2021、査読無
77	令和4年	松田 知樹、高橋 亨輔、井面 仁志	複合現実を活用した災害調査支援システムの開発(共同発表)	情報処理学会第84回全国大会講演論文集4-905-4-906、2022、査読無
78	9月	竹之内健介	Information system of flood disaster in Japan	10th Sino-US International Conference for public administration
79	9月	Takenouchi, K	Early Warning Filter and Square Pyramid Model	Integrated Disaster Risk Management 2021
80	9月	Takenouchi, K.	Research on IoT Community Observation System Collaborated with Community Activities	2021 Disaster & Emergency Management Conference

研究、解説、論文（2021年度）③

（氏名五十音順）

	日付	氏名	内容	依頼先等
81	11月	竹之内健介	気象情報フィルターとピラミッドモデル	第23回災害情報学会大会
82	12月	竹之内健介	「日本における地域防災活動と防災スイッチ」について	国際シンポジウム -中米の経験に学ぶ地域防災-
83	令和3年	竹之内健介	新型コロナウイルスが将来の災害時の避難行動に与える影響に対する地区防災計画の役割(共著)	地区防災計画学会, 第21巻, pp.51-63.
84	令和3年	嶋崎崎詠子・宮田秀介・竹之内健介・堤大三・藤田正治	現地観測に基づいた関数モデルによる斜面の災害危険度指標(共著)	砂防学会誌, Vol.74, No.5, pp.I_123-I_133.
85	令和3年	前中裕貴・田中耕司・山口行一・竹之内健介・東良慶・玉木秀幸・西澤詠亮	2次の内水氾濫の発生とその防災・減災対策の課題,	土木学会論文集F6(安全問題), 第77巻, 2号, pp.I_44-I_52.
86	令和3年	竹之内健介・高橋和利・矢守克也	ローカルスイッチ形成における地域と行政の連携～京都府福知山市の事例を通じて～,	土木学会論文集F6(安全問題), 第77巻, 2号, pp.I_44-I_52.
87	令和3年	藤原宏之・佐藤史弥・松川吉幸・黄屋敷哲也・高原耕平・竹之内健介	災害対応プロセスを通じた災害時のマネジメント業務に対する被災経験基礎自治体職員と災害マネジメント総括支援員等の比較分析ー平成30年7月豪雨から令和元年東日本台風までの災害を対象としてー	地域安全学会論文集, Vol.39, pp.255-265.
88	令和3年	竹之内健介・本間基寛・矢守克也・鈴木靖	災害対応の素振り・振返りのための訓練ツールの機能評価ー水害を対象とした事前検証を通じてー	災害情報, 第19巻, 1号), pp.11-22.
89	2月	竹之内健介	自然災害科学 防災の百科事典(共著)	丸善出版
90	3月	竹之内健介・鈴木舜平・本間基寛・山口弘誠・佐山敬洋・及川康・大西正光・矢守克也	気象災害の潜在性に関する意識調査～災害ポテンシャル情報の社会における活用に向けて～,	第24回災害情報学会大会
91	3月	竹之内健介・竹内瑞希	高知県四万十町大正地区におけるIoT-COSの構築	
92	令和4年	Nakai, F., Nakamura, S., and Takenouchi, K.	Communities' Disaster Preparedness Promoted Evacuation: a Case Study of Nagano City Damaged by the Chikuma River Floods Caused by Typhoon Hagibis,	Journal of JSCE, Vol.10, pp.56-69.
93	令和3年	T. Miura, T. Tamaki, M. Kii, Y. Kajitani	Efficiency by sectors in areas considering CO2 emissions: The Case of Japan	Economic Analysis and Policy, 2021
94	令和3年	Y.Bessho, H. Nakanishi, T. Tamaki, S. Takahashi, T. Honjo, Y. Suenaga	Study on Symbiotic System of Sea Urchin (Strongylocentrotus nudus) and Kombu (Saccharina japonica) in the Great East Japan Earthquake area	Journal of Recent Advances in Marine Science and Technology, 2021, Vol.14, No.1, pp.11-20
95	令和3年	山中浩明・地元孝輔・津野靖士・是永将宏・三宅弘恵・吉見雅行・杉山長志・先名重樹	富士川河口断層帯周辺での臨時強震観測と微動探査	物理探査, 74, 49-56, 2021
96	3月	地元孝輔	MeSO-net連続地震観測記録にみられる関東平野西端部による盆地端部生成波の伝播特性	日本建築学会構造系論文集, 第87巻, 第793号, 251-262
97	令和4年	Michael W. Asten, Alan Yong, Sebastiano Foti, Koichi Hayashi, Antony J. Martin, William J. Stephenson, John F. Cassidy, Jacie Coleman, Robert Nigbor, Silvia Castellaro, Kosuke Shimoto, Cecile Cornou, Ikou Cho, Takumi Hayashida, Manuel Hobiger, Chun-Hsiang Kuo, Albert Macau, E. Diego Mercierat, Sheri Molnar, Passakorn Pananont, Marco Pilz, Nakhorn Poovarodom, Esteban S7ez, Marc Wathelet, Hiroaki Yamanaka, Toshiaki Yokoi and Don Zhao	An assessment of uncertainties in Vs profiles obtained from microtremor observations in the phased 2018 COSMOS blind trials	Journal of Seismology, https://doi.org/10.1007/s10950-021-10059-4 , 2022.
98	3月	萩池昌信	Web会議システムと机上演習を併用したハイブリッド型JMAT研修(ポスター発表)	第27回 日本災害医学会
99	3月	萩池昌信	指揮命令系統を意識した机上避難所運営訓練 (HUGの応用編) (ポスター発表)	第27回 日本災害医学会
100	令和3年	松村 伸二	高温化するため池地帯: 暖地農業はため池をどう活用するか	北海道の農業気象, 47-51
101	5月	Ayane Yanaka, Keiichiro Shibata, Naomichi Matsumoto and Hidenori Yoshida	Removal of Cesium from Contaminated Soil by Electrophoresis using Potassium Acetate as Electrolyte	STUDY ON, International Journal of GEOMATE, Vol. 20, Issue 81, pp. 16-21, May 2021
102	5月	妹尾大輝, 久保菜, 磯打千雅子, 吉田秀典	衛星画像を用いた機械学習による被災箇所推定に関する研究	第24回応用力学シンポジウム
103	5月	山谷健介, 吉田秀典, 松本直通, 岡崎慎一郎	木質バイオマス燃焼灰に含まれる六価クロム無害化に関する研究	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会, オンライン開催
104	5月	妹尾大輝, 久保菜, 吉田秀典	人工知能による衛星画像からの被災箇所抽出に関する研究	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会, オンライン開催
105	5月	上野沢斗, 谷中彩寧, 岡崎慎一郎, 吉田秀典	重金属吸着粉殻を混合したコンクリートの性状ならびに重金属溶出特性に関する研究	令和3年度土木学会四国支部第27回技術研究発表会, オンライン開催
106	6月	山本貴史, 玉置哲也, 岡崎慎一郎, 岡崎百合子, 吉田秀典, 末永慶寛	AIを用いた人工魚礁内における岩礁性魚類の資源生産力向上に関する研究	第46回土木学会海洋開発シンポジウム, オンライン開催
107	7月	谷中彩寧, 吉田秀典, 末永慶寛	複数の化学種を混入した溶液からのヒ素の選択的吸着特性に関する研究	第56回地盤工学研究発表会, 12-5-5-05, オンライン開催
108	7月	末永慶寛, 玉置哲也, 岡崎慎一郎, 吉田秀典	AIを活用した水産資源生産力向上技術の開発	海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム, 香川大学
109	9月	谷中彩寧, 上野沢斗, 松本直通, 吉田秀典	重金属吸着粉殻の再資源化に関する研究	令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, V-353, オンライン開催, 2021年9月
110	9月	山谷健介, 吉田秀典, 松本直通, 末永慶寛, 小宅由似, 久保祐輔	ポーラスコンクリートの物性ならびに植物生育能力に関する研究	令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, オンライン開催
111	9月	山本貴史, 玉置哲也, 岡崎慎一郎, 岡崎百合子, 吉田秀典, 末永慶寛	AIを用いた人工魚礁内における岩礁性魚類の資源生産力向上に関する研究	土木学会論文集B3(海洋開発), 77(2), pp.I_709 - I_714, 2021年9月
112	10月	Takuma Kadono, Sho Kato, Shinichiro Okazaki, Toshinori Matsui, Yoshio Kajitani, Masahide Ishizuka and Hidenori Yoshida	Effects of Dynamical Change in Water Level on Local Scouring around Bridge Piers Based on In-Situ Experiments	Water, Vol.13, Issue 21, October 2021
113	12月	妹尾大輝, 久保菜, 磯打千雅子, 吉田秀典	機械学習や画像処理技術を活用した衛星画像からの被災箇所抽出に関する研究	計算数理工学論文集, Vol.21, pp.27-36, 2021年12月
114	2月	Ayane Yanaka, Yuri Takeshita, Keiichiro Shibata, Yoshihiro Suenaga and Hidenori Yoshida	Adsorption Properties of Materials Adsorbing Selectively Arsenic from Aqueous Solutions Containing Multiple Chemical Species	International Journal of GEOMATE, Vol. 22, Issue 90, pp. 79-84, February, 2022
115	2月	Shinichiro Okazaki, Hiroma Iwase, Hiroyuki Nakagawa, Hidenori Yoshida and Ryosuke Hinei	Effect of Moisture Distribution on Velocity and Waveform of Ultrasonic-Wave Propagation in Mortar	Materials, 14(4), Page Number790, February, 2021
116	2月	吉田秀典	A4国エリアの国土強靱化に向けた取り組み	日刊工業新聞, 2021年9月
117	3月	Kensuke Yamaya, Yui Oyake, Yoshihiro Suenaga, and Hidenori Yoshida	Study on Physical Properties and Grass Growth Capacity of Porous Concrete	International Journal of GEOMATE, Vol.22, Issue 91, pp.8-13, March, 2022
118	3月	Ayane Yanaka, Keiichiro Shibata, Naomichi Matsumoto and Hidenori Yoshida	Study on Adsorption of Heavy Metals by Rice Husk and Extraction of Heavy Metals Adsorbed in Rice Husk	International Journal of, GEOMATE, Vol.20, Issue 79, pp.28 - 33, March, 2022
119	3月	吉田秀典	大学における教育のDX化	土木学会誌, p.76, 2022年3月

受賞学術賞（2021年度）

（氏名五十音順）

	氏 名	内 容
1	磯打千雅子	令和3年度内閣総理大臣防災功労者表彰



2.運営、管理

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構会議

開催日	内 容
令和4年3月7日	令和3年度 機構会議

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構運営会議

開催日	内 容
令和3年6月4日	第1回 機構運営会議
令和3年7月21日	第2回 機構運営会議（メール審議）
令和3年9月29日	第3回 機構運営会議
令和4年2月28日	第4回 機構運営会議（メール審議）

3.規定

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人香川大学組織規則第17条の2第2項の規定に基づき、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（以下「機構」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、香川大学（以下「本学」という。）が、防災・減災・危機管理に資する教育研究拠点、地域強靱化支援機能の強化・充実に及び教育研究成果のアジア・諸外国への普及のための国際拠点形成を推進することを目的とする。

(機構の構成)

第3条 機構は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる下部組織（以下「センター等」という。）を置き統括する。

- (1) 危機管理先端教育研究センター
- (2) 地域強靱化研究センター
- (3) 企画調整室

2 センター等の業務に関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第4条 機構は、次に掲げる業務を実施する。

- (1) 危機管理先端教育研究センター及び地域強靱化研究センターの運用
- (2) 地域特性に基づく減災・危機管理教育研究拠点の形成
- (3) 地域強靱化に資する防災・減災・危機管理推進拠点の形成
- (4) 防災・危機管理教育プログラムの開発と普及拠点の形成
 - ① 防災・危機管理統一教育プログラムの開発と普及拠点の形成
 - ② 防災・危機管理専門家養成特別プログラムの四国・全国への普及、アジア並びに諸外国への普及
 - ③ 災害・危機管理対応マネージャー等資格授与機関の設置・運用

(職員)

第5条 機構に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長 2人（第3条第1項第1号及び第2号の教員 各1人）
- (3) 機構担当教員
- (4) 併任教員
- (5) 研究員
- (6) その他必要な職員

(機構長)

第6条 機構長は、学長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

2 機構長は機構の業務を掌理する。

(副機構長)

第7条 副機構長は、危機管理先端教育研究センターの機構担当教員から1名、地域強靱化研究センターの機構担当教員から1名を機構長が任命する。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故があるときは、機構長から指名を受けた副機構長がその職務を代理する。

3 副機構長の任期は2年とし、再任することができる。ただし、副機構長の任期の末日は、当該副機構長を任命する機構長の任期の末日とする。

4 前項の規定にかかわらず、副機構長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(機構担当教員)

第8条 機構担当教員は、学長が選考し任命する。

2 機構担当教員は第3条第1項の各号に規定するセンター等を担当し、当該センター等の業務を処理する。

(併任教員)

第9条 併任教員は、本学専任教員で防災・減災・危機管理の教育研究推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、機構長の推薦に基づき、学長が任命する。

2 併任教員は第3条第1項の各号に規定するセンター等を担当し、当該センター等の業務を処理する。

(研究員)

第10条 研究員は次の各号に掲げる者の中から機構長が任命又は委嘱する。

(1) 機構研究に関する共同研究を行っている国内外の研究員

(2) その他機構長が必要と認めた者

2 研究員は第3条第1項の各号に規定するセンター等の研究を行う。

(客員教授等)

第11条 機構に、客員教授及び客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 前項の客員教授等の称号の付与は、機構長の申出に基づき、学長が行う。

3 客員教授等の称号の付与期間は、1年以内とし、再任することができる。

4 客員教授等は第5条第5号に規定する者を兼ねることができる。

(顧問)

第12条 機構に、顧問を置くことができる。

2 顧問は、機構の運営に関し助言を行うことができる。

3 顧問は、機構の運営に関し卓越した識見を有する有識者のうちから、機構長の推薦により、学長が委嘱する。

4 顧問の任期は、2年以内とし再任することができる。ただし、顧問の任期の末日は当該顧問を推薦する機構長の任期の末日とする。

(機構会議)

第13条 機構の運営に関し助言・提言を得ることを目的として、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構会議（以下「機構会議」という。）を置く。

2 機構会議に関し必要な事項は、別に定める。

(機構運営会議)

第14条 機構の運営に関し必要な事項等を審議するため、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構運営会議（以下「機構運営会議」という。）を置く。

2 機構運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第15条 機構に関する事務は、機構が関係する学部事務部の協力を得て、学術・地域連携推進室研究協力グループにおいて処理する。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規程の施行により、香川大学危機管理研究センター規程（平成20年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、令和元年11月11日から施行する。

IECMS

Institute of Education,
Research and Regional Cooperation
for Crisis Management Shikoku



香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

【幸町キャンパス】 〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号 TEL : 087-832-1656 FAX : 087-832-1668

【林町キャンパス】 〒761-0396 香川県高松市林町2217-20 TEL : 087-864-2544 FAX : 087-864-2549 E-mail : kikikanri-c@kagawa-u.ac.jp

URL: <http://www.kagawa-u.ac.jp/iecms/>

2022.12月発行